

令和8年8月千葉豪雨災害等の概要と課題

令和8年9月11日
令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた内水氾濫対策検討会
(第1回)

内閣府(防災担当)

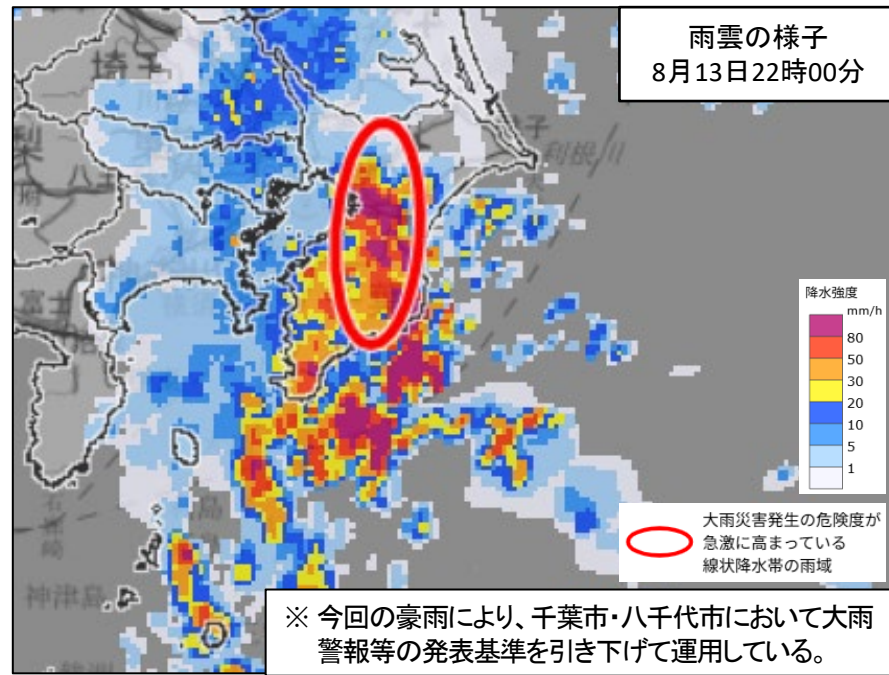
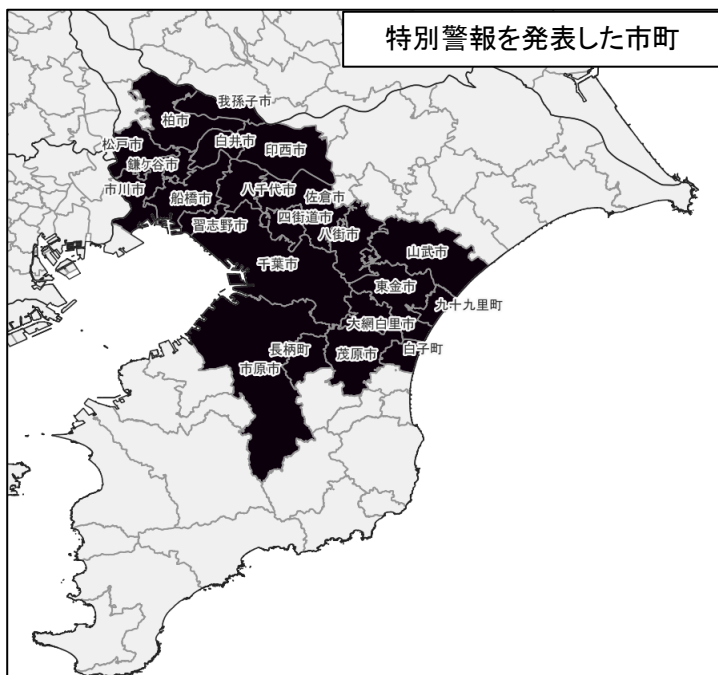
- 気象概要
- 被害概要
- 人的被害の概要
- 車両被害の概要
- 避難指示・緊急安全確保の発令を支援するための防災気象情報の発信状況
- 避難指示・緊急安全確保の発令状況
- 避難情報、防災気象情報の伝達手段の活用状況
- 平時におけるリスク情報の提供状況
- リアルタイムのリスク情報の提供状況
- 帰宅困難者の状況
- 浸水した建物等の被害状況
- 氾濫を防ぐための治水の状況
- 千葉豪雨後に各省庁が実施した対策の状況

气象概要

令和8年8月千葉豪雨(気象概要)

令和8年8月千葉豪雨

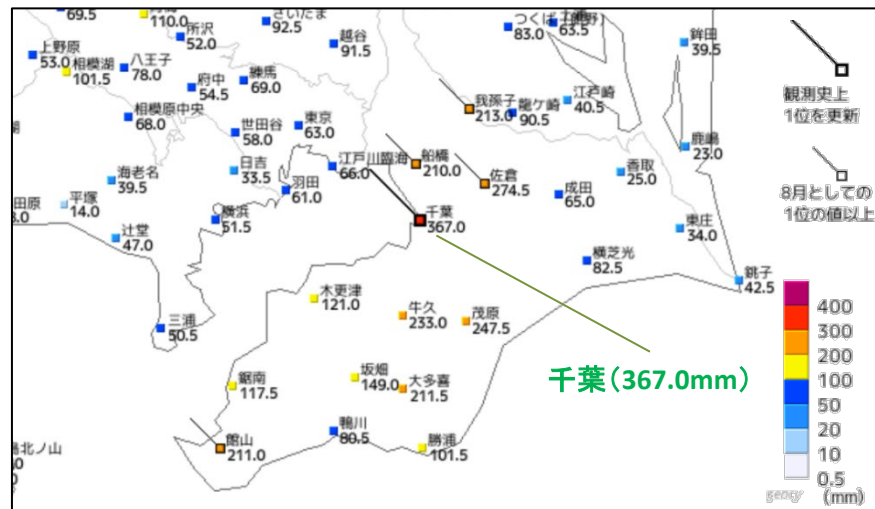
- 千葉県では13日夕方以降、線状降水帯が発生し雨雲が長時間同じ所で停滞したため記録的な大雨となった所があり、特に千葉市では、平年の8月の総降水量の3倍以上となる360ミリを超える降水量を観測し、観測史上1位を更新した。
- この記録的な大雨により、千葉県には13日19時30分から14日05時15分にかけて、レベル5大雨特別警報やレベル5土砂災害特別警報を広い範囲に発表。
- 13日は、この時期としては強い上空の寒気や、高気圧の縁を回り東から入る暖かく湿った空気により、雨雲が発達した。関東地方内陸部で日中の雨や雷雨により発生した下層の冷たい空気の影響で、この雨雲が西に動かず同じ地域に停滞したため、降水量が急激に増加した。



【参考】令和8年8月千葉豪雨(気象概要)

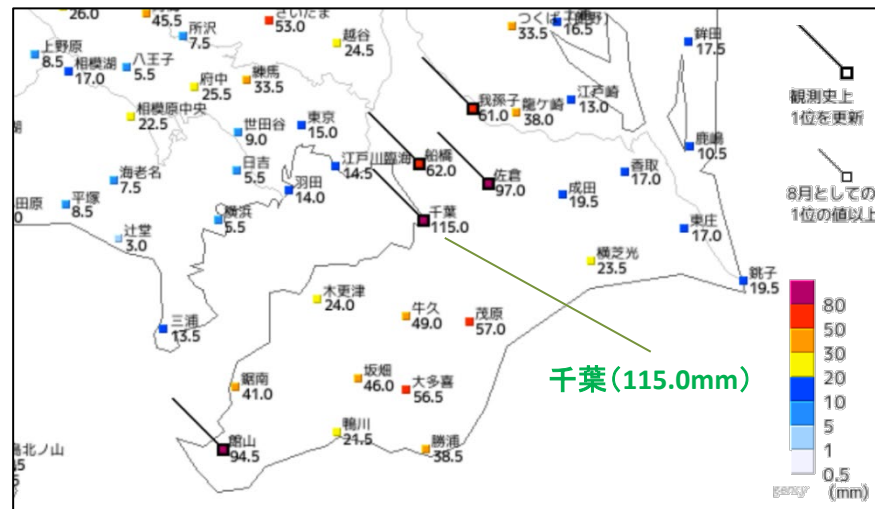
【雨】期間内の24時間降水量最大値

(8月13日00時～8月14日24時)



【雨】期間内の1時間降水量最大値

(8月13日00時～8月14日24時)



順位	都道府県	市町村	地点	観測値	
				mm	年月日 時分(まで)
1	千葉県	千葉市中央区	千葉(チバ) ※ 1	367.0	2026/8/14 10:00
2	千葉県	佐倉市	佐倉(サクラ) ※ 2	274.5	2026/8/14 16:40
3	千葉県	茂原市	茂原(モバラ)	247.5	2026/8/14 03:30
4	千葉県	市原市	牛久(ウシク)	233.0	2026/8/14 04:00
5	千葉県	我孫子市	我孫子(アビコ) ※ 2	213.0	2026/8/14 10:20
6	千葉県	夷隅郡大多喜町	大多喜(オオタキ)	211.5	2026/8/14 03:50
7	千葉県	館山市	館山(タデヤマ) ※ 2	211.0	2026/8/14 09:20
8	千葉県	船橋市	船橋(フナバシ) ※ 2	210.0	2026/8/14 06:40
9	埼玉県	大里郡寄居町	寄居(ヨリイ)	199.5	2026/8/13 00:10
10	群馬県	高崎市	榛名山(ハルナサン)	163.5	2026/8/13 01:30

順位	都道府県	市町村	地点	観測値	
				mm	年月日 時分(まで)
1	千葉県	千葉市中央区	千葉(チバ) ※ 1	115.0	2026/8/13 18:48
2	千葉県	佐倉市	佐倉(サクラ) ※ 1	97.0	2026/8/13 19:31
3	千葉県	館山市	館山(タデヤマ) ※ 1	94.5	2026/8/13 21:53
4	千葉県	船橋市	船橋(フナバシ) ※ 1	62.0	2026/8/13 18:43
5	千葉県	我孫子市	我孫子(アビコ) ※ 1	61.0	2026/8/13 14:30
6	千葉県	茂原市	茂原(モバラ)	57.0	2026/8/13 21:34
7	千葉県	夷隅郡大多喜町	大多喜(オオタキ)	56.5	2026/8/13 21:24
8	埼玉県	さいたま市桜区	さいたま(サイタマ)	53.0	2026/8/13 15:44
9	栃木県	小山市	小山(オヤマ)	51.0	2026/8/13 12:14
10	広島県	三次市	三次(ミヨシ) ※ 2	50.5	2026/8/13 17:10

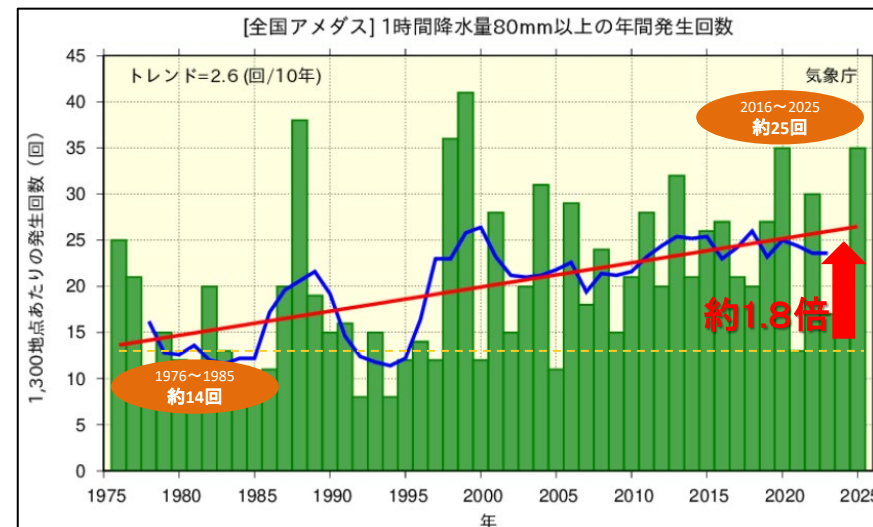
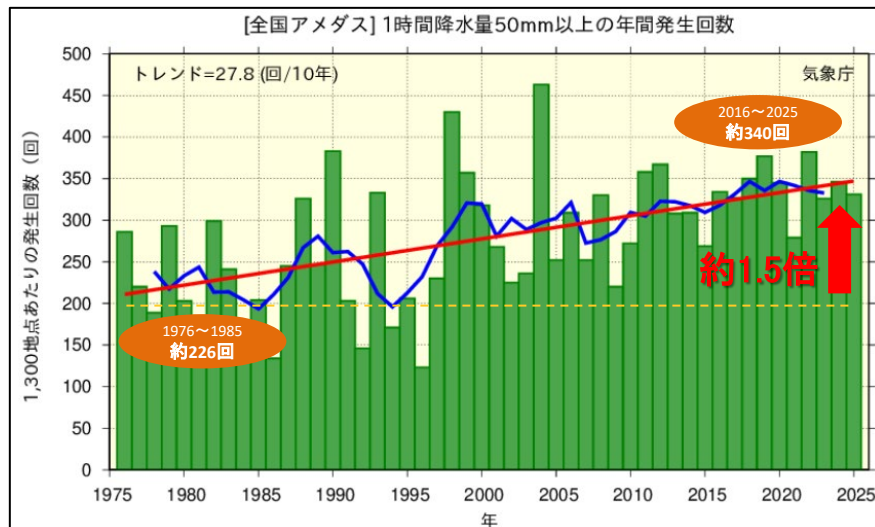
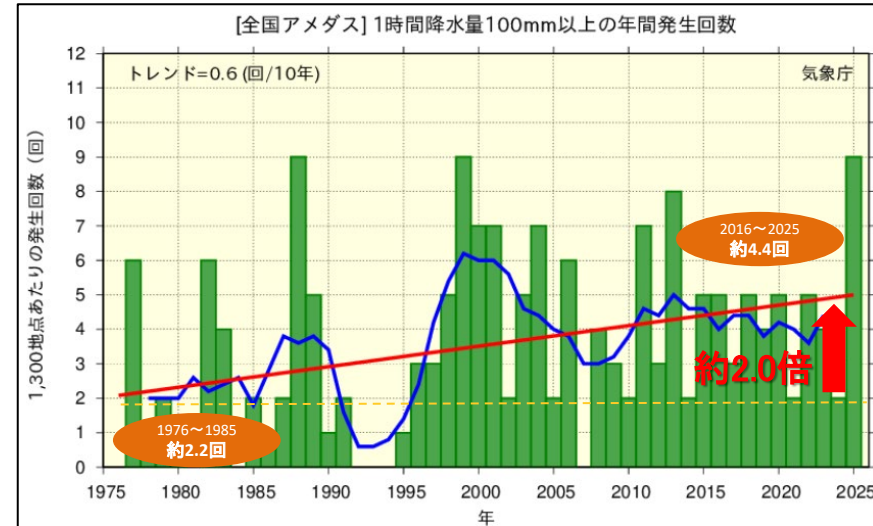
※1: 観測史上1位の値を更新した地点を示す。※2: これまでの8月の1位の値を更新した地点を示す。

出典: 気象庁

【参考】全国の大雨の発生頻度の変化

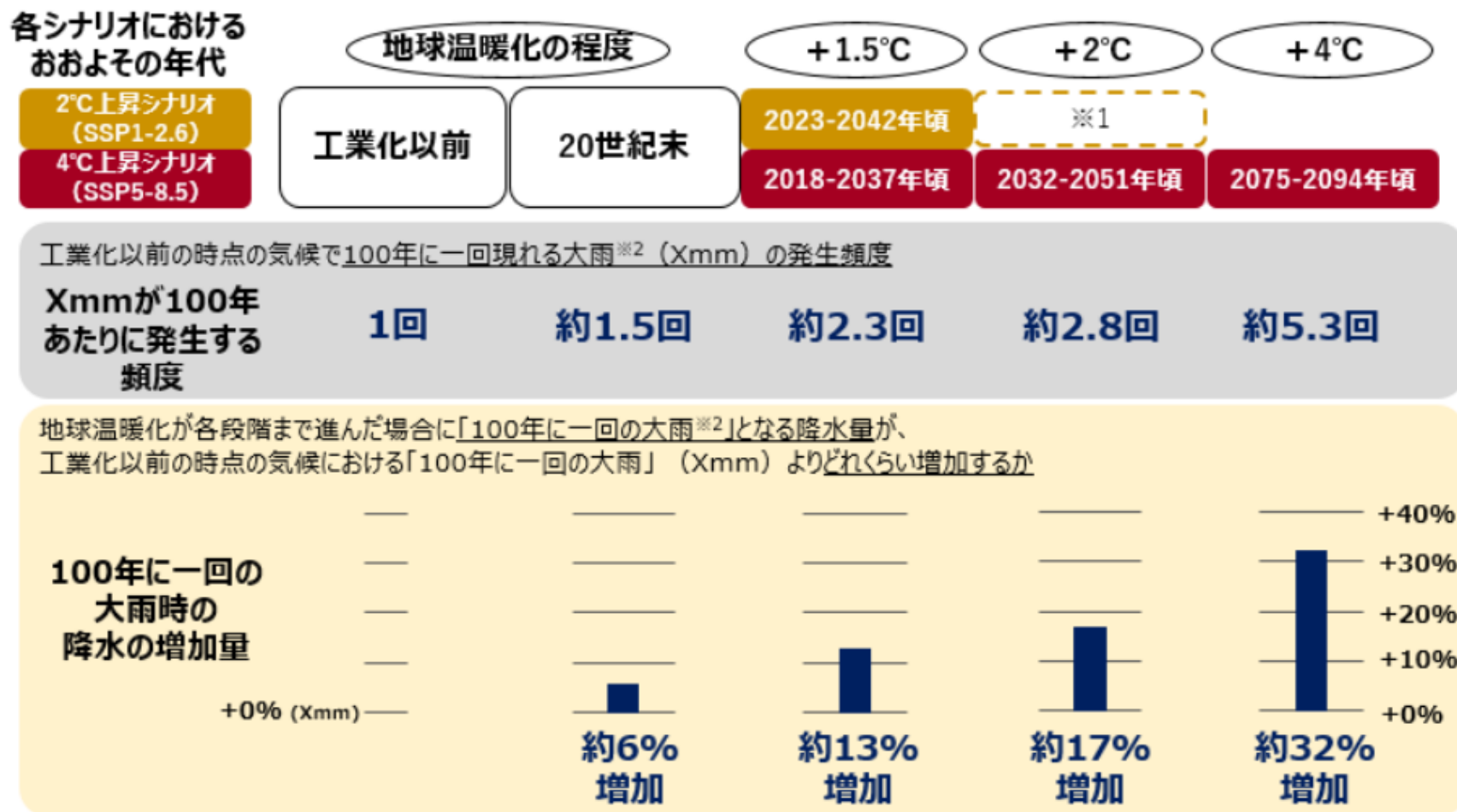
- 全国の1時間降水量50mm以上、80mm以上、100mm以上の年間発生回数は増加傾向にある。

1時間の 雨量	年間発生回数(平均)	
	1976～1985年	2016～2025年
100mm 以上	約2.2回	約2.0倍 → 約4.4回
80mm 以上	約14回	約1.8倍 → 約25回
50mm 以上	約226回	約1.5倍 → 約340回



【参考】100年に1回の極端な大雨の発生頻度と降水量の変化

- 今後地球温暖化が更に進行した場合、世界平均地表気温が工業化以前と比べて1.5℃上昇時には約2.3回、2℃上昇時には約2.8回、4℃上昇時には約5.3回（いずれも全国平均）まで発生頻度が増加すると予測されている。



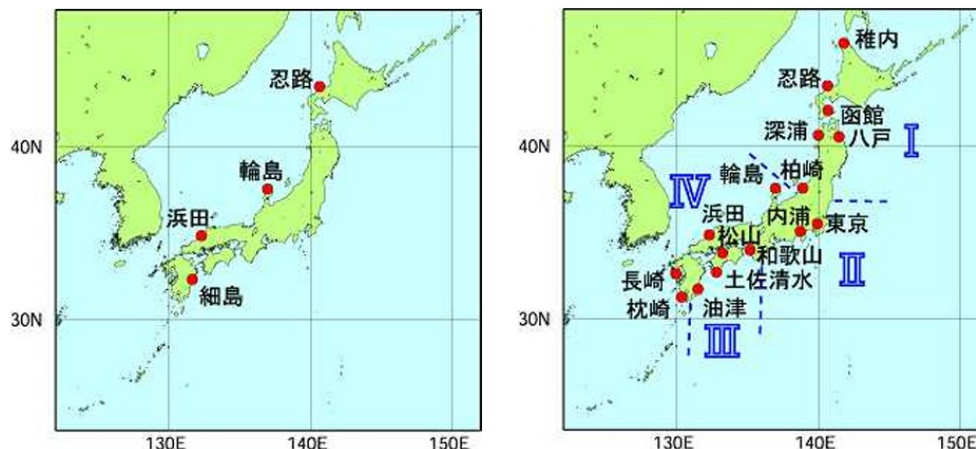
※1 2031-2050年頃に発生する可能性はある

※2 ここでは日降水量を解析した

【参考】日本沿岸における21世紀末の海面水位上昇量

- 日本の海面水位は、20世紀末を基準とした21世紀末の上昇量は4℃上昇シナリオでは0.68m、2℃上昇シナリオでは0.40m上昇すると予測されている。(4海域平均)

日本沿岸の平均海面水位の算出に用いた地点



左：1906年から1959年のデータを使用4地点

右：1960年以降のデータを使用16地点

各海域、4海域平均及び世界平均の20世紀末(1986～2005年平均)を基準とした海面水位上昇量の将来予測(m)

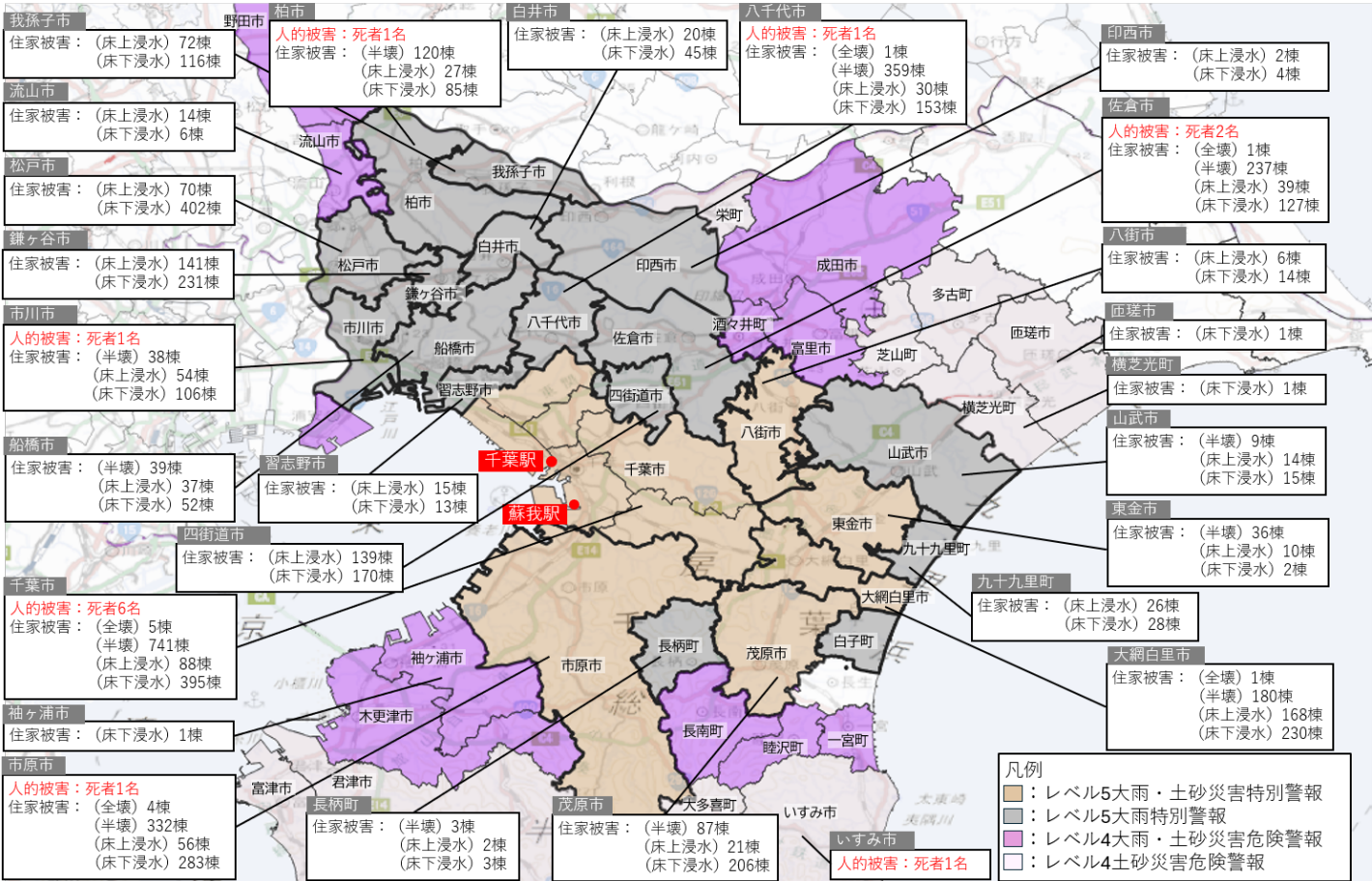
	シナリオ	海域 I	海域 II	海域 III	海域 IV	4 海域平均	(世界平均)
2031~ 2050 年 平均	2℃ 上昇	0.16 (0.14~0.21)	0.17 (0.14~0.22)	0.16 (0.12~0.22)	0.16 (0.13~0.21)	0.17 (0.14~0.21)	0.16 (0.14~0.21)
	4℃ 上昇	0.19 (0.16~0.24)	0.19 (0.16~0.24)	0.18 (0.14~0.23)	0.19 (0.16~0.24)	0.19 (0.16~0.24)	0.19 (0.16~0.23)
2081~ 2100 年 平均	2℃ 上昇	0.40 (0.30~0.55)	0.40 (0.30~0.56)	0.39 (0.29~0.55)	0.40 (0.31~0.56)	0.40 (0.30~0.55)	0.41 (0.32~0.57)
	4℃ 上昇	0.67 (0.55~0.87)	0.68 (0.56~0.88)	0.67 (0.55~0.87)	0.69 (0.57~0.89)	0.68 (0.56~0.88)	0.67 (0.55~0.87)

被害概要

令和8年8月千葉豪雨被害概要（人の被害・住家被害）

9月9日12:00時点

都道府県	人の被害							住家被害					
	死者	うち 災害関連死者	行方 不明者	負傷者			合計	全壊	半壊	床上 浸水	床下 浸水	一部 破損	合計
				重傷	軽傷	小計							
	人	人	人	人	人	人	人	棟	棟	棟	棟	棟	棟
埼玉県										2	35	1	38
千葉県	13		0	2	44	46	59	12	2,183	1,052	2,701	272	6,220
合 計	13		0	2	44	46	59	12	2,183	1,054	2,736	273	6,258



令和8年8月27日からの大雨、令和8年台風第24号及び前線による大雨に係る被害概要（人的被害・住家被害）

9月10日 17:00時点

都道府県	人 的 被 害						住 家 被 害						
	死者	うち 災害関連死者	行 方 不明者	負 傷 者			合計	全壊	半壊	床上 浸水	床下 浸水	一部 破損	合計
				重傷	軽傷	小計							
	人	人	人	人	人	人	人	棟	棟	棟	棟	棟	棟
青森県					1	1	1			36	103		139
秋田県									1	1	20	2	24
福島県	1						1				5		5
茨城県										1	31	1	33
栃木県											2		2
千葉県					2	2	2				3	3	6
東京都										1			1
富山県								4	5	185	431		625
石川県					7	7	7			175	449		624
福井県					3	3	3			180	882	1	1,063
山梨県											1		1
長野県										1	1		2
岐阜県					1	1	1			3	3	1	7
愛知県					24	24	24			45	86	2	133
三重県					1	1	1						
和歌山県					1	1	1				7		7
島根県											2		2
鹿児島県											1	2	3
合 計	1				40	40	41	4	6	628	2,027	12	2,677

被害概要

石川県羽咋市



出典:NHK HP

富山県氷見市



出典:NHK HP

福井県坂井市



出典:NHK HP

愛知県名古屋市



出典:NHK HP

【参考】被害概要（河川浸水） 千葉県

令和8年8月千葉豪雨に伴う河川の対応状況

※速報であり、数値等は今後変わることがある。

令和8年8月31日 13:30時点

国土交通省 水管理・国土保全局

1. 13日の夜、千葉県付近に線状降水帯が発生し、千葉県内の22の市町でレベル5大雨特別警報が発表された。
2. 千葉県管理の17河川において浸水被害を確認。（浸水解消）
31河川111箇所で護岸の変状などを確認。応急対策を完了済。



【参考】被害概要（河川浸水） 福井県・石川県・富山県

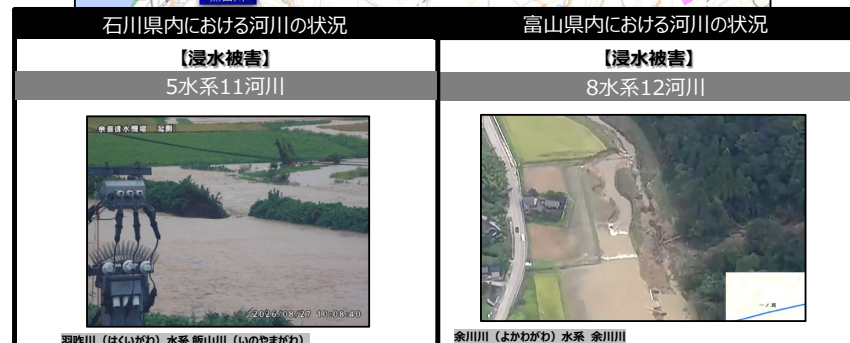
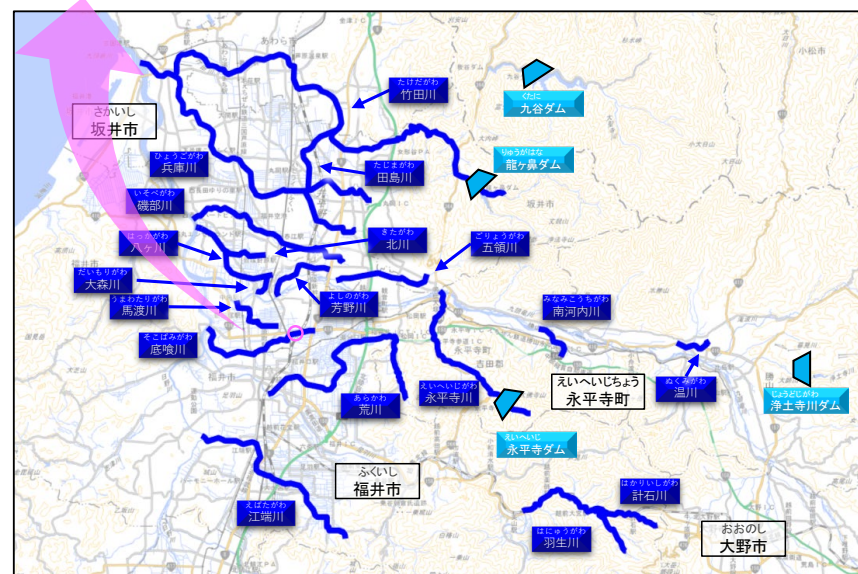
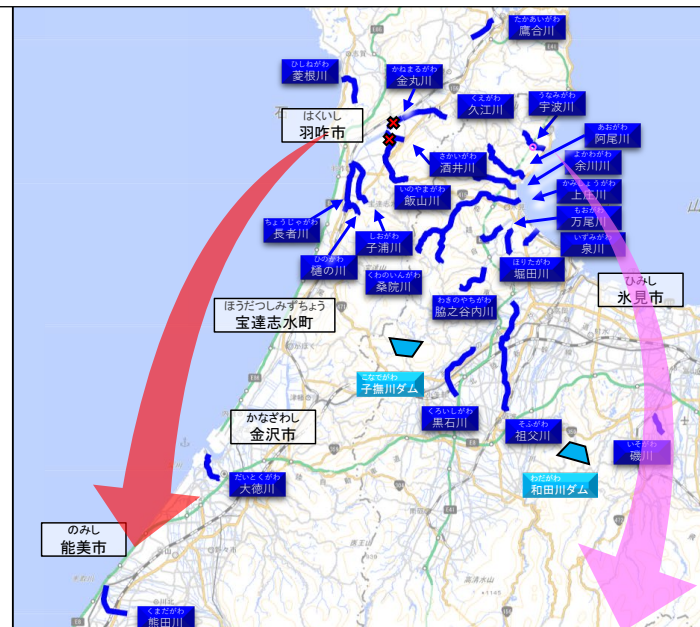
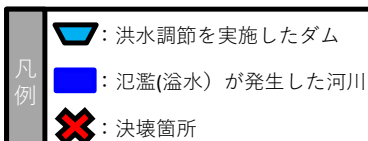
令和8年8月27日からの大雨に伴う河川の対応状況

※速報であり、数値等は今後変わることがある。

令和8年9月8日 4:00時点

国土交通省 水管理・国土保全局

1. 北陸地方で27日明け方から朝にかけて線状降水帯が相次いで発生し、27日朝までの24時間雨量がこれまでの観測史上1位を更新する300ミリを超える大雨となっている。27日6時20分に石川県や富山県にレベル5大雨特別警報が発表。福井県では29日夜から断続的に雷を伴った非常に激しい雨が降った。福井県では、30日朝までの24時間降水量がこれまでの観測史上1位を更新する300ミリを超える記録的な大雨となり、30日04時30分に福井県にレベル5大雨特別警報が発表。
2. 9月2日からの大雨で、青森県管理の2河川において浸水を確認。8月29日からの大雨で、福井県管理の18河川において浸水を確認。8月27日からの大雨で、石川県管理の11河川、富山県管理の12河川において浸水被害を確認。そのうち、石川県管理の羽咋川水系で飯山川と金丸川の堤防決壊を確認。2河川とも応急復旧完了済。
3. ダムについては、31ダムで洪水調節を実施。



人的被害の概要

被害概要（人的被害）

- 令和8年8月千葉豪雨では13名の死者が生じた（千葉市6、市川市、佐倉市2、八千代市、いすみ市、柏市、市原市）※災害との関連調査中の4名含む。
- 人的被害が生じた場所は、アンダーパス2名、坂道で冠水が想定される箇所4名、その他の場所7名（調査中4名含む）と推定。

※発見場所の詳細は報道や千葉県へのヒアリングによるものであり、あくまで推定。

発見場所：千葉市中央区稲荷町3丁目（末広地下道）

- 冠水した道路付近で倒れているところを発見された。

近景



出典：千葉市資料

遠景

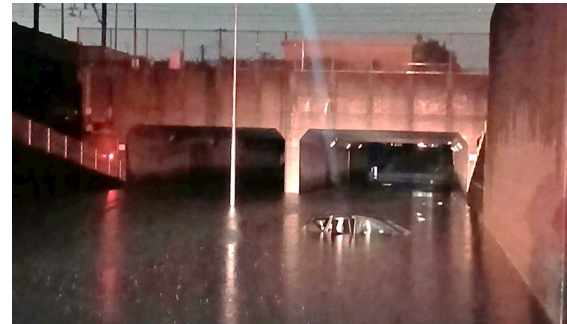


出典：千葉市資料

発見場所：千葉市中央区村田町（村田町アンダーパス）

- 水没した普通乗用車の車内で、心肺停止状態で発見された。

近景



出典：国土交通省資料

遠景



出典：国土交通省資料

被害概要（人的被害）

発見場所：市川市二俣

- ・道路冠水で浮いているところを発見され、病院で死亡が確認された。



出典：NHK HP

発見場所：八千代市上高野

- ・冠水した道路上で倒れているところを発見された。

著作権上の理由により非公表

発見場所：佐倉市上志津

- ・路上で倒れていたところを発見され、病院で死亡が確認された。

著作権上の理由により非公表

発見場所：柏市八幡町

- ・道路冠水で自動車に閉じ込められ、心肺停止。



出典：NHK HP

被害概要（人的被害）

発見場所:佐倉市臼井台

- ・道路冠水で自動車に閉じ込められていたところを発見され、その場で死亡が確認された。



出典:NHK HP

発見場所:千葉市若葉区和泉町

- ・冠水した農道付近で、心肺停止状態で発見された。



出典:NHK HP

発見場所:いすみ市万木

- ・自宅近くの用水路の中で発見され、その場で死亡が確認された。死因は溺死と推定される。

以下の死者は災害との関連を調査中

発見場所:千葉市中央区浜野町

- ・停電のため室内で発動発電機を使用し、一酸化炭素中毒で死亡した。

発見場所:千葉市若葉区中野町

- ・鹿島川沿いで遺体が発見された。

発見場所:市原市東国吉

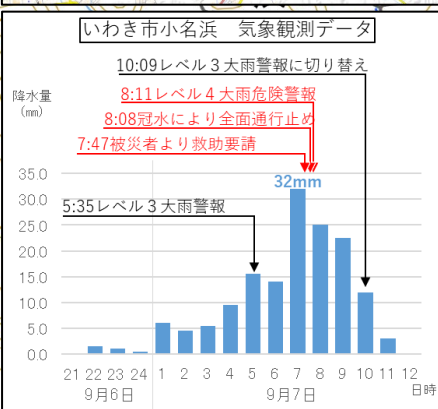
- ・8月13日に市外の親族宅から帰宅の途について以降、行方不明となっていた方と同一人物だと判明。

発見場所:千葉市若葉区多部田町

- ・田んぼ内で遺体が発見された。若葉区北谷津町で救助活動中に行方不明になっていた方と同一人物だと判明。

【参考】福島県いわき市 市道沼田・馬場線 アンダーパス冠水

R8.9.7 11:00時点



日時: 令和 8 年 9 月 7 日 (月) 8 時頃

場所: 市道沼田・馬場線 (米田アンダーボックス)

福島県いわき市鹿島町米田字手倉地内

原因: アンダーパス冠水

気象: 時間雨量最大32mm (6時~7時)

被害: 車両 2 台が水没 (1 名死亡・その他人員は避難して無事)

対策: ポンプ: 有 注意喚起看板: 有 水位センサー: 有



車両被害の概要

車両被害について

- 記録的な降雨により広範囲で道路が冠水し、多数の車両が浸水・水没し、例えば千葉市では約2,500台の車両が立ち往生・放置され、交通機能にも影響が発生。



出典: NHK HP



出典: NHK HP



出典: NHK HP



出典: 千葉市資料
(主)千葉八街横芝線_佐倉市岩富町

被災車両の対応について

- 千葉県、千葉市、佐倉市、大網白里市等で、災害対策基本法による被災車両の排除（移動）できる区間を指定。
- 関東地方整備局において、千葉市に対し、TEC-FORCEによる被災車両移動の支援やレッカー車最大17台の派遣、仮置き場の提供などを実施。
- 8月18日に設置した、国、県をはじめ関係機関で構成するプロジェクトチームにおいて、被災車両への円滑な対応に向けた取り組みを推進。
- 千葉県内の道路上の被災車両は、8月31日までに全て撤去が完了。（最大約3,100台）
- 所有者と連絡が取れない車両は、引き取りを円滑に進めるため、8月25日から車両番号の一部や車種などの情報をホームページで掲載。

○路肩等から仮置き場への移動



・車両仮置き場の状況
(国提供地: 国道357号千葉市役所付近)



・路肩から搬送



○交通障害車両の路肩への移動 (8月16日～)



・路肩への移動(車両用移動用装置)



・路肩への移動(人力)

冠水道路での自動車利用について

- 令和元年台風19号による大雨において、自動車が水没する等により、運転者や同乗者が亡くなる事故が相次いだことを踏まえ、国土交通省において自動車が冠水した道路を走行する場合に発生する不具合を公表。
- JAFにおいて道路冠水時における車両の走行性能や安全性について検証し公表。

令和元年11月27日
自動車局
審査・リコール課

水深が床面を超えたら、もう危険！

－ 自動車が冠水した道路を走行する場合に発生する不具合について －

自動車が冠水した道路を走行する場合、水深が車両の床面を超えると、エンジン、電気装置等に不具合が発生するおそれがあります。また、水深がドアの高さの半分を超えると、ドアを内側からほぼ開けられなくなります。

今年の台風 19 号等による大雨においては、自動車が水没する等により、運転者や同乗者が亡くなる事故が相次ぎました。

自動車は、エンジンやモーターで駆動し、電気装置により制御されているため、水深が車両の床面を超えて車内へ浸水すると、様々な不具合が発生するおそれがあり、最悪の場合、エンジンやモーターが停止して移動できなくなります。また、水深がドアの下端にかかると、車外の水圧により内側からドアを開けることが困難となり、ドア高さの半分を超えると、内側からほぼ開けられなくなります。

国土交通省では、国内乗用車メーカー8社に対して、自動車が冠水した道路を走行した場合に生じ得る不具合等について調査を行い、その結果を踏まえ、「自動車が冠水した道路を走行する場合に発生する不具合」を別紙のとおりまとめましたので、公表します。

※1 浸水による車両への影響については、車両形状や設計により異なります。

※2 一度浸水した車両は、運転可能であっても、電気装置等が損傷を受けているおそれがあるため、自動車整備工場等で点検整備を受けるようにしてください。



詳細については別紙をご参照ください。

冠水路走行テスト ～電気自動車(BEV)・ハイブリッド車(HV)・ガソリン車で検証～(JAFユーザーテスト)



水深	速度	車種	結果
30cm	10km/h	電気自動車 (BEV)	走り切ることができた
		ハイブリッド車 (HV)	走り切ることができた
		ガソリン車	走り切ることができた
	30km/h	電気自動車 (BEV)	走り切ることができたが、車体下部のアンダーカバーが外れた ボンネット内部に水が浸入
		ハイブリッド車 (HV)	走り切ることができたが、右後輪のホイールカバーと左前の牽引フックが外れた ボンネット内部に水が浸入
		ガソリン車	走り切ることができたが、車内とボンネット内部に水が浸入

避難指示・緊急安全確保の発令を支援するための 防災気象情報の発信状況

避難情報を支援するための防災気象情報に関する情報発信について

- 大雨による重大な災害から人命を守るため、重大な災害発生の危険性が著しく高まった場合には大雨特別警報を発表するとともに、テレビ等を通じて広く周知し、最大級の警戒と命を守る行動を呼びかけている。
- 気象解説情報や時系列情報も災害の規模や今後の見通しを伝える上で有用な情報であるため、その内容が住民に理解され、避難行動につながるよう、自治体や報道機関と連携し、分かりやすく伝えることが重要。

気象庁、水管理・国土保全局 合同記者会見

【警戒レベル5相当】 報道発表資料 令和8年8月13日 気象庁

千葉県に レベル5大雨特別警報発表

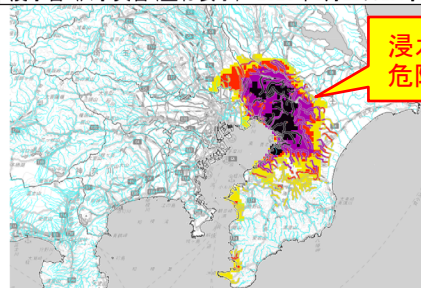
- これまでに経験したことのないような大雨
- 災害がすでに発生している可能性が極めて高い
- 命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保

警戒レベル	取るべき行動
5	命の危険 直ちに安全確保！
4	危険な場所から全員避難
3	危険な場所から高齢者等は避難
2	自らの避難行動を確認
1	災害への心構えを高める

国土交通省 気象庁

大雨キキクル

浸水害・洪水災害(重ね表示) 2026年8月13日19時30分



浸水害や洪水災害、土砂災害の危険度の高まりを地図上に表示



- 警戒レベル5に相当する「災害切迫」(黒)となっている場所では、重大な災害が切迫しているか、すでに発生している可能性が高い状況となっています。土砂災害警戒区域や浸水想定区域等の危険な場所からまだ避難できていない方は、いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等することが重要です。
- 警戒レベル4に相当する「危険」(赤)となっている場所では、重大な災害がいつ発生してもおかしくない状況となっています。危険な場所にいる方は速やかに安全な場所へ避難することが重要です。

全般気象解説情報(気象庁HP)

気象庁 Japan Meteorological Agency

気象防災情報・気象解説情報等 都道府県選択 千葉県選択

一覧に戻る

全般気象解説情報(大雨・氾濫・落雷) 第1号

2026年08月13日22時34分 気象庁発表

千葉県では、これまでに経験したことのないような大雨となっている所があります。14日明け方にかけて低い土地の浸水、河川の増水や氾濫、土砂災害に最大級の警戒をしてください。引き続き千葉県では、線状降水帯が発生して災害発生の危険度が急激に高まるおそれがあります。

【気象概況】
千葉県にレベル5大雨特別警報とレベル5土砂災害特別警報を発表しています。何らかの災害がすでに発生している可能性が高く、警戒レベル5に相当します。
関東甲信地方では、千葉の東に中心をもつ高気圧の南側から暖かく湿った空気が流れ込んでいます。上空の寒気の影響も加わり、大気の状態が非常に不安定となっており、断続的に雷を伴って猛烈な雨や非常に激しい雨が降っている所があります。同じような場所で大雨が降り続けていることから、増水している河川では氾濫が発生するおそれがあり、土砂災害の危険度が高まっている所では14日は少しの雨でも土砂災害が発生する可能性もあります。また、落雷や竜巻などの激しい突風が発生するおそれもあります。

【雨の予想】
千葉県では、局地的に猛烈な雨が降り、大雨となる見込みです。
14日0時から15日0時まで予想される24時間降水量は多い所で、
関東甲信地方 20.0ミリ
線状降水帯が発生した場合は、局地的にさらに雨量が増えるおそれがあります。

【防災事項】
低い土地の浸水、河川の増水や氾濫、土砂災害に最大級の警戒をしてください。
落雷や竜巻などの激しい突風にも注意してください。発達した積乱雲の近づく兆しがある場合には、建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。降ひょうのおそれもありますので、農作物や農業施設の管理にも注意してください。

【補足事項】
今後発表する防災気象情報に留意してください。
次の「全般気象解説情報(大雨・氾濫・落雷)」は、14日5時頃に発表する予定です。

今後の雨の見通し
や防災事項を解説

時系列情報(気象庁HP)

気象庁 Japan Meteorological Agency

時系列情報(明日までの警報等の見通し) 千葉県 千葉市

要素: 全て 大雨・土砂災害・高潮 その他 警戒レベル: 全て 注意報級以上

千葉市の時系列情報(明日までの警報等の見通し)

2026年08月13日20時17分発表

千葉市	13日								14日				15日	備考・関連する現象
	18-21	21-24	00-03	03-06	06-09	09-12	12-15	15-18	18-21	21-24				
1時間最大雨量(mm)	60	70	80	80	30	30	30	30	10	5				
24時間最大雨量(mm)	200													
大雨														
土砂災害														
高潮	1.0	0.2	0.5	1.0	1.0	-0.1	0.0	0.9	0.9	0.4				

今後の雨の見通し(1時間降水量、24時間降水量)も発表

【参考】時系列情報(明日までの警報等の見通し)

- 令和8年度の新たな防災気象情報の運用開始に合わせ、新たに「時系列情報(明日までの警報等の見通し)」を提供。
 - 時系列情報は、警報・注意報に先立って気象の見通しを市町村単位(一部市町村は山地等をさらに分割した地域)で提供する予測情報。
 - 警報・注意報の発表に関わらず、時系列情報の対象とする全要素※について、翌日までの3時間毎または日毎の気象状況の見通しを、毎日4回(05時、11時、17時、23時)提供
- ※対象要素:
 大雨、土砂災害、風、波、高潮、雷、乾燥、大雪、融雪、濃霧、着氷、着雪、なだれ、低温、霜 (下線部の要素は日毎の見通しを提示)
- 気象庁ホームページでは常時表示、定期的に更新(上記の4回)
 - 定期的な更新以外にも、当初の想定から今後の見通しが大きく変わった場合などには、必要に応じて臨時に修正情報を発表(気象庁ホームページの時系列情報も更新)
- 提供開始した直後で活用が進んでいないと思われるため、引き続き普及啓発に努める。

時系列情報のイメージ

		2026年XX月XX日11時00分発表												備考・関連する現象	
〇〇市	地域	12-15	15-18	18-21	21-24	00-03	03-06	06-09	09-12	12-15	15-18	18-21	21-24	30日	
1時間最大雨量(mm)						10	30	50	50	30	20	10			
2.4時間最大雨量(mm)															
大雨															
土砂災害															
暴風(m/s)	陸上	5	10	15	20	25	30	35	40	35	30	25	20	15	5
	海上	10	15	20	25	30	35	40	45	40	35	30	25	20	10
6時間最大降水量(mm)															
24時間最大降水量(mm)															
大雪															
波浪(m)		2	4	6	8	8	8	8	8	8	8	5	2		
高潮	潮位(m)	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	0.5		
雷															
融雪															
濃霧	陸上														
	海上														
着氷															
着雪															
乾燥	実効湿度(%)														
	最小湿度(%)														
なだれ															
低温															
霜															

災害切迫

特別警報基準を超えると予想される時間帯

危険

危険警報基準を超えると予想される時間帯
(土砂災害、高潮については、危険警報発表の可能性のある時間帯)

警戒

警戒基準を超えると予想される時間帯
(土砂災害、高潮については、警戒発表の可能性のある時間帯)

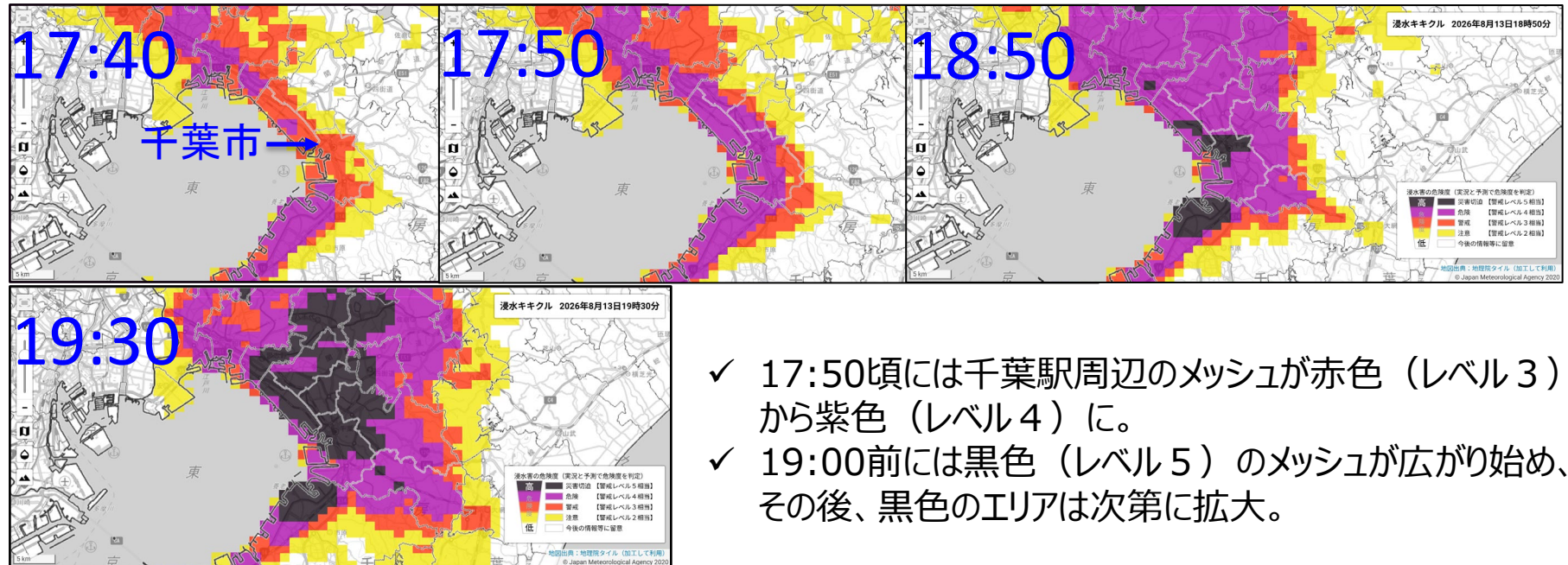
注意

注意報基準を超えると予想される時間帯
(高潮については、注意報発表の可能性のある時間帯)

【参考】キキクル(大雨災害の危険度分布)

- ・ 降雨の実況・予測をもとにした災害の危険度の分布「キキクル」を気象庁HPで提供。
- ・ キキクルの危険度は1kmメッシュで10分毎にリアルタイムに更新され、5段階で地図上に色分け表示。どの場所がどの程度の危険度になっているかがひと目で分かる。
- ・ 浸水害の場合、「紫」の段階で、周囲よりも低い場所など浸水しやすい場所にいる者はできるだけ高い場所へ移動するなど、危ない場所から離れるといった行動をとることが大切。

令和8年8月千葉豪雨の際の浸水キキクルの例



- ✓ 17:50頃には千葉駅周辺のメッシュが赤色 (レベル3) から紫色 (レベル4) に。
- ✓ 19:00前には黒色 (レベル5) のメッシュが広がり始め、その後、黒色のエリアは次第に拡大。

キキクルは気象庁HPから誰でも確認できるほか、キキクルの危険度の変化をプッシュ通知する無料アプリを民間事業者の協力により提供。
携帯端末のGPS機能により、今いる場所の危険度の変化を通知するアプリもある。

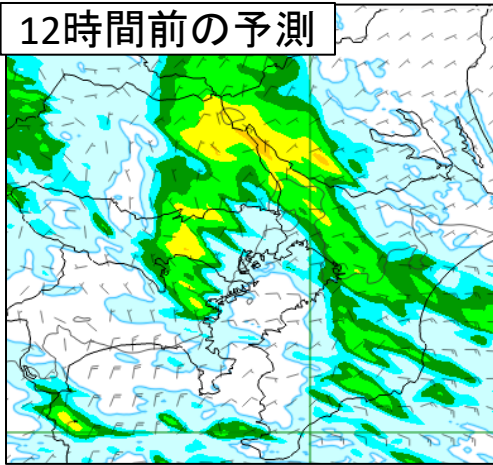


「令和8年8月千葉豪雨」の予測の状況

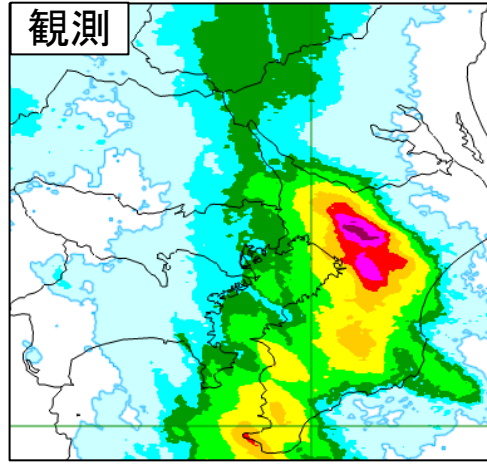
- ・ 関東地方の広範囲で大気の状態が非常に不安定になることは予想できていた。しかしながら、強い雨の位置とその停滞を予測することが難しく、線状降水帯の発生を予測できなかった。
- ・ この要因について異常気象分析検討会によると、関東内陸で降水によって発生した下層の冷たい空気が形成・拡大し、東からの温かく湿った空気がこの冷たい空気に乗り上げた。これにより積乱雲が発生・急発達することで線状降水帯が相次いで発生する構造となっていた。現在の数値予報モデルでは、下層の冷たい空気、これに伴う積乱雲の発生・発達が予測できていなかった。
- ・ 世界最先端の観測能力を持つ次期気象衛星の整備を進めるとともに、先端AI技術やスーパーコンピュータを用いた予測技術の開発を進め、気象予測の精度向上にしっかりと取り組んでいく。

13日18～21時までの3時間雨量

12時間前の予測

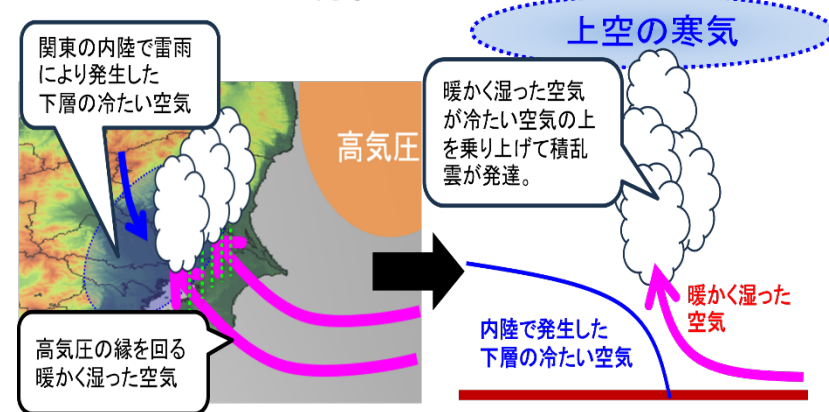


観測



- ・ 数値予報モデルによる予測では、半日程度前の時点では関東地方である程度の大雨になることは予測していた。
- ・ 一方で、線状降水帯の位置の特定や停滞の予測はできていなかった。

現象のイメージ



避難指示・緊急安全確保の発令状況

大雨に関する避難情報の発令状況

- レベル5大雨特別警報が発表された地域は、警戒レベル5緊急安全確保が発令されている。
- 警戒レベル5緊急安全確保が発令されたタイミングは自治体によって異なっている。

◆各自治体 情報発表・指示発令タイミング

レベル2大雨注意報

レベル4大雨危険警報

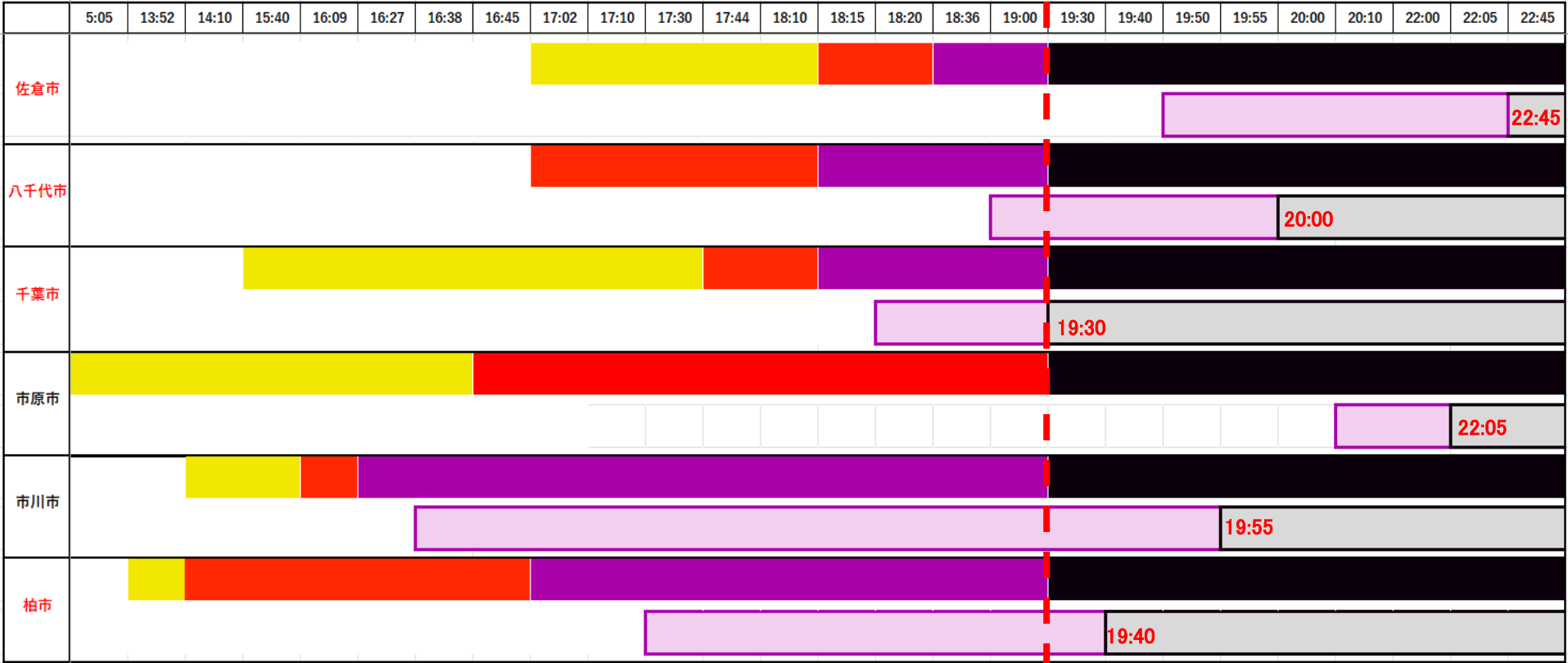
警戒レベル4避難指示

レベル3大雨警報

レベル5大雨特別警報

警戒レベル5緊急安全確保

※土砂災害警戒区域への発令は除く



※レベル5大雨特別警報が発表され、かつ人的被害があった自治体を表示

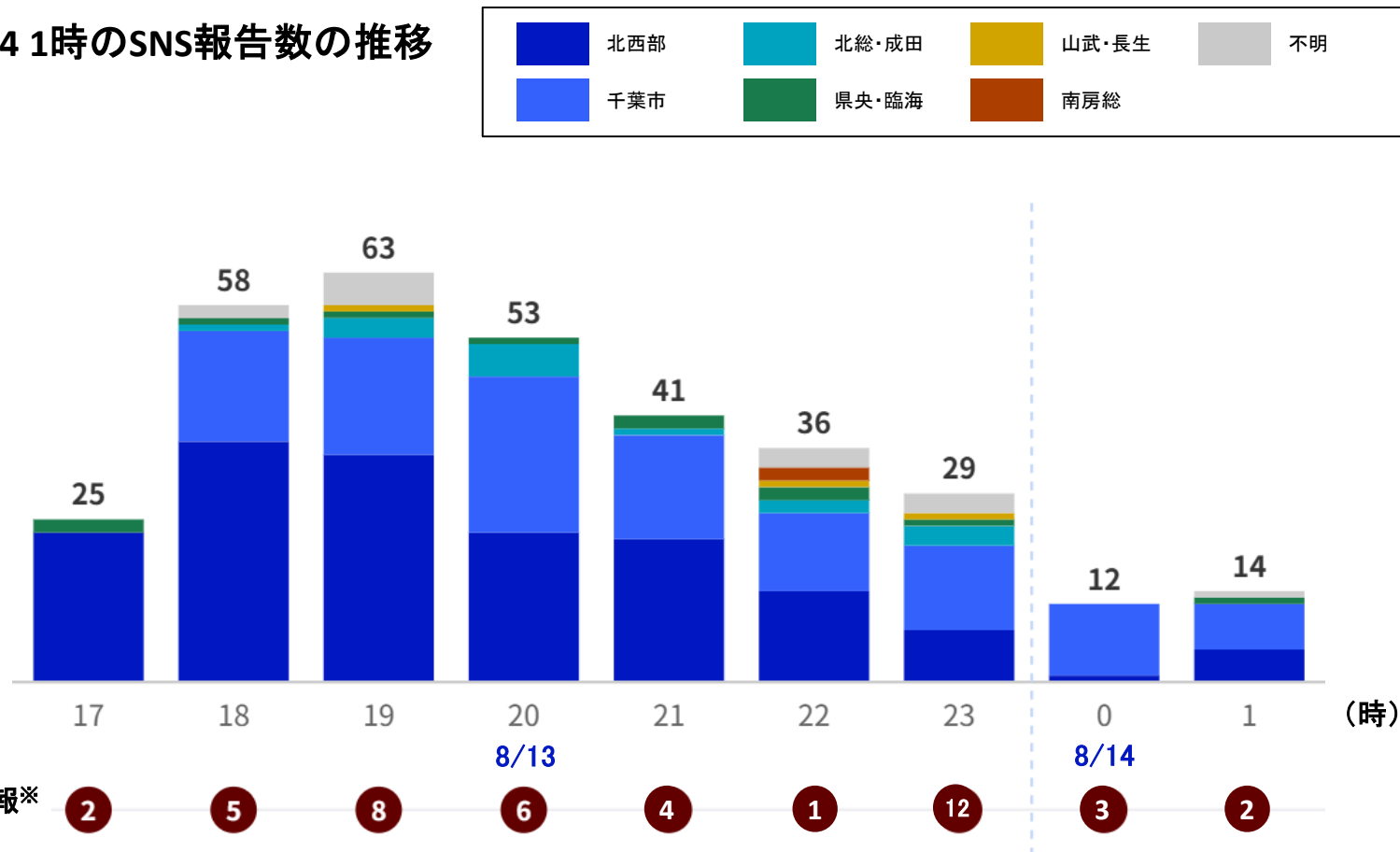
※赤字の自治体は、市内全域にレベル5緊急安全確保を発令した自治体

▲19:30 レベル5大雨特別警報 発表

浸水・冠水報告の時系列推移

- ・ 浸水・冠水の投稿は記録的短時間大雨情報が発表された17時頃から徐々に増加、同じ頃にキキクルの紫のエリアも急速に拡大。
- ・ レベル5大雨特別警報が発表され、キキクル黒の領域が大きく広がった19時台にピークを迎えている。

8/13 17時 ～ 8/14 1時のSNS報告数の推移



出典: 株式会社Specteeに一部加筆

※数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨(千葉県の場合は1時間雨量100mm以上)を、観測したり、解析したりした地域を市町村単位で気象庁が発表。

浸水・冠水報告の時系列推移(千葉市)

- SNS上では18時台に初めて浸水・冠水に関する投稿があった。
- 投稿数は大雨特別警報が発表された後にピークを迎えている。

SNS上の浸水・冠水投稿数

※Specteeが独自に収集・位置特定をし当該市町村と判定できたもの



出典:株式会社Spectelに一部加筆

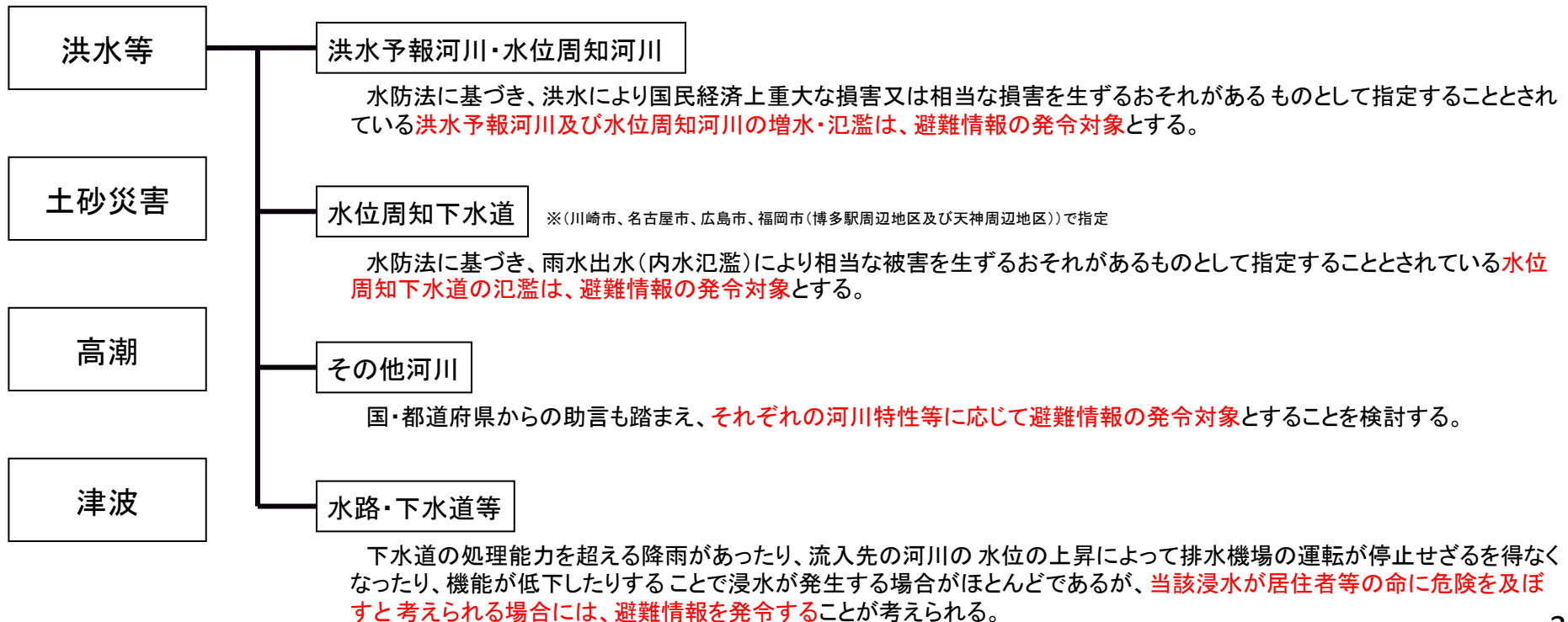
「避難情報のガイドライン」の現状について

- 市町村が避難情報を適切に発令するための考え方や手順、住民がとるべき避難行動などを示した指針として「避難情報に関するガイドライン」(以下、「ガイドライン」という)を策定している。
- ガイドラインでは、災対法の趣旨を踏まえ、「居住者等の命を脅かす危険がある災害」を避難情報の発令対象としており、水路・下水道は命の危険がない場合は対象としていない。

【ガイドラインにおいて避難情報の発令対象としている災害】

<「洪水等」で立退き避難が必要な場合>

- ①河川が氾濫した場合に、氾濫流が家屋流失をもたらすおそれがある場合や、山間部等の流速が速いところで、河岸侵食や氾濫流が家屋流失をもたらすおそれがある場合。
※具体的な区域や河岸侵食の幅の設定に参考になる情報として、国・都道府県が「家屋倒壊等氾濫想定区域」を設定している場合がある。
- ②浸水深が深く、居室が浸水するおそれがある場合や、地下施設・空間のうち、その利用形態と浸水想定から、居住者・利用者に命の危険が及ぶおそれがある場合。
※住宅地下室、地下街、地下鉄等、道路のアンダーパス部の車両通行、地下工事等の一時的な地下への立ち入り等にも留意が必要。
- ③ゼロメートル地帯のように浸水が長期間継続するおそれがある場合。



内水氾濫に関する避難情報の考え方の変遷

- ・これまで、外水氾濫などによる犠牲者減らすことを中心に、リスク情報の提供や避難のあり方について検討が行われてきた。
- ・「避難情報に関するガイドライン」において、内水氾濫は浸水深が深い場合には立ち退き避難の対象とするが、命の危険を及ぼさない場合は、避難情報発令の対象外としてきたところ。

H16年度：策定 観測史上最多となる10個の台風上陸を踏まえ、適切なタイミングで避難情報が発令できるようガイドラインを策定

- ・外水氾濫からの立ち退き避難を対象としており、内水氾濫については、外水氾濫からの立ち退き避難の際に避難が困難になる、といった観点で記載。

H26年度：改定 策定以降に設けられた制度や東日本大震災をはじめとする災害の教訓も踏まえ改定。「避難」に関する考え方を整理し、具体的な発令基準の設定方法を提示。

- ・「避難」の考え方として、「立ち退き避難」に加え「屋内安全確保」(現行の緊急安全確保も兼ねる)を規定。
- ・「避難情報」の発令対象の災害は「立ち退き避難」が必要な災害とし、屋内安全確保は各人の判断で取る行動としている。
- ・内水氾濫は屋内安全確保で命を脅かす危険性がほぼないので、避難情報発令の対象としていないが、内水地域で浸水深が深く、屋内安全確保では身体に危険が及ぶ場合は、避難情報を設定することとしている。

H27年度：改定 平成26年8月の広島市における土砂災害等を踏まえ改定。自発的な避難の推奨や夜間避難回避のための早期発令、PUSH型とPULL型を組み合わせた情報提供等を記載。

- ・水位周知下水道に指定された場合は、避難勧告の対象とすることを記載。

H28年度：改定 平成28年台風第10号による高齢者施設が被災した水害等を踏まえ改定。「避難準備情報」から「避難準備・高齢者等避難開始」への名称変更などを実施。

- ・内水氾濫を避難情報の発令対象としない場合の3つの要件を提示。

H30年度：改定 平成30年7月豪雨では、避難情報が発令されたものの、自宅に留まるなどにより多くの方が犠牲になった事を踏まえ、ガイドラインを改定。5段階の警戒レベルを導入。

- ・「屋内安全確保」と「緊急安全確保」の考え方を整理。
屋内安全確保：リードタイムがある際に、居住者等が自ら判断してとる行動。緊急安全確保：避難をし遅れ、立ち退き避難がかえって危険な場合にとる行動。
- ・災対法の改正により、「必要と認める地域の必要と認める居住者等」に対して、避難指示・緊急安全確保の発令が可能となったが、立ち退き避難が必要ないと誤解を与える恐れがあるため、屋内安全確保のみを指示できる規定とはしていない。

R3年度：改定 令和元年台風19号では、避難勧告で避難しない人が多かったことを踏まえ改定。避難勧告・避難指示の一本化、警戒レベル5の名称を「緊急安全確保」に変更などを実施。

- ・H30年度から変更なし。

R8年度：改定 新たな防災気象情報の運用開始に合わせ改定。名称変更に加え「時系列情報」の活用などを記載。

- ・命の危険を及ぼす場合は、避難情報の発令対象とし、大雨に関する情報、キキクル等を用いて発令することを記載。命の危険を及ぼさない場合は、発令対象としない。

内水氾濫に関する避難情報を取り巻く状況

・昨今、内水氾濫に係る浸水想定区域図・ハザードマップが整備されると共に、キキクルなどきめ細かな情報提供が開始されているところ。

【避難情報に関するガイドライン(内水関係)】

H16年度

- ・外水氾濫からの立退き避難を対象

H26年度

- ・「立退き避難」に加え「屋内安全確保」(現行の緊急安全確保も兼ねる)を規定
- ・内水地域で浸水深が深く、屋内安全確保では身体に危険が及ぶ場合は、避難情報を設定

H27年度

- ・水位周知下水道に指定された場合は、避難勧告の対象とする

H28年度

- ・内水氾濫を避難情報の発令対象としない場合の3つの要件を提示

R3年度

- ・「屋内安全確保」と「緊急安全確保」の考え方を整理。
屋内安全確保:リードタイムがある際に、居住者等が自ら判断してとる行動
緊急安全確保:避難をし遅れ、立退き避難がかえって危険な場合にとる行動

R8年度

- ・命の危険を及ぼす場合は、避難情報の発令対象とし、大雨に関する情報、キキクル等を用いて発令することを記載。命の危険を及ぼさない場合は、発令対象としない

【防災気象情報】

H20年度

- ・大雨・洪水警報等の発表基準に土壌雨量指数・流域雨量指数を導入

H22年度

- ・警報・注意報を市町村単位で提供

H25年度

- ・特別警報の運用開始

H29年度

- ・危険度分布(キキクル)の提供開始
- ・大雨警報等の発表基準に表面雨量指数を導入

R1年度

- ・危険度分布(キキクル)の通知サービス開始
民間アプリで情報が入手可能となった

R2年度

- ・大雨特別警報の指標改善

R8年度

- ・警報等の名称にレベルを付した新たな防災気象情報の提供開始

【内水リスク】

H13年度

- ・水防法改正により、洪水浸水想定区域指定制度(洪水予報河川)、洪水ハザードマップ作成制度を創設

H17年度

- ・水防法改正により、洪水浸水想定区域指定の対象を水位周知河川に拡大、地下街等における避難確保計画作成制度を創設

H21年度

- ・内水ハザードマップ作成の手引き(案)公表

H27年度

- ・水防法改正により、内水に係る浸水想定区域指定制度の創設

H28年度

- ・水害ハザードマップ作成の手引きを公表。洪水・高潮・津波・内水に関する手引きとして統合。

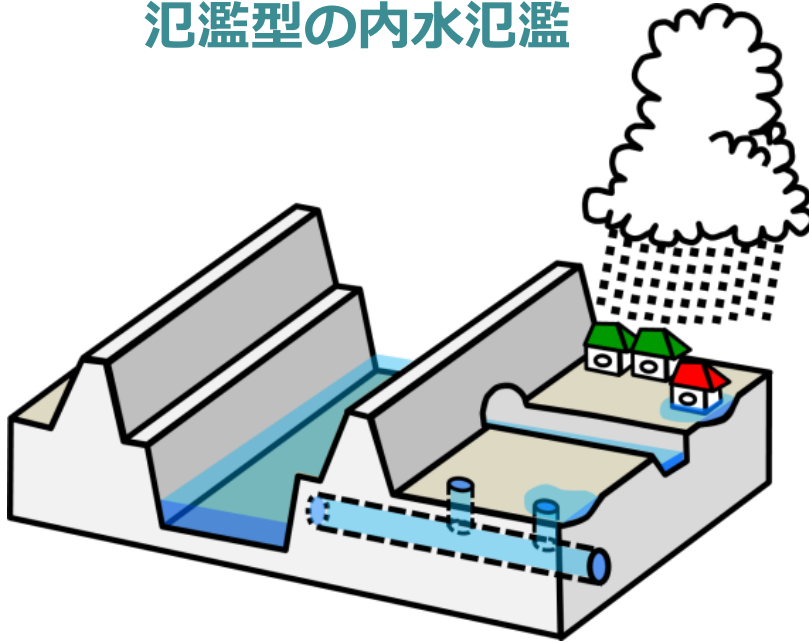
R3年度

- ・水防法を改正し、水害リスク情報の空白域を解消するため、浸水想定区域図及びハザードマップの作成・公表の対象を全ての一級・二級河川や海岸、下水道に拡大

【参考】内水氾濫の種類

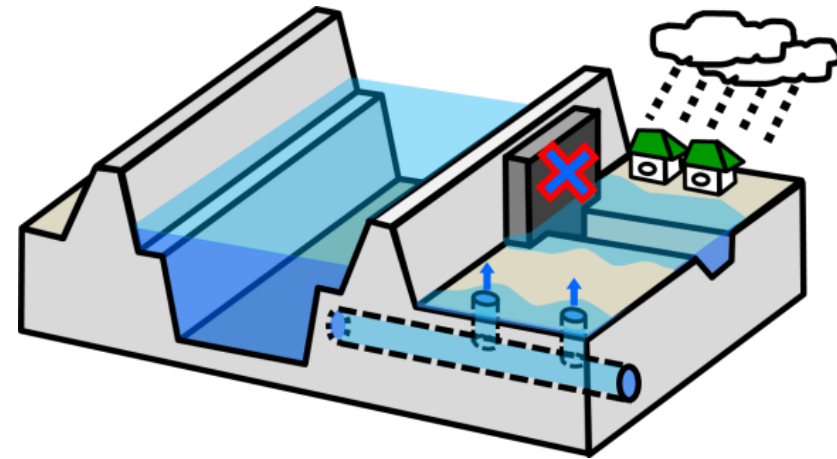
- 内水氾濫には、下水道の排水施設の能力不足等による「氾濫型の内水氾濫」と、河川等の水位上昇に伴い当該雨水を排水できない場合に発生する「湛水型の内水氾濫」がある。

氾濫型の内水氾濫



- ✓ 短時間強雨等により雨水の排水能力が追いつかず、発生する浸水。
- ✓ 河川周辺地域とは異なる場所でも発生する。

湛水型の内水氾濫



- ✓ 河川周辺の雨水が河川の水位が高くなったため排水できずに発生。
- ✓ 発生地域は堤防の高い河川の周辺に限定される。

令和8年9月の大雨に伴う庄内川水系の状況

- 名古屋市周辺では、線状降水帯の発生に伴い、記録的な短時間大雨に見舞われ、16時頃には名古屋市中心部等で道路冠水が発生。
- その後も降雨が継続し、庄内川水系矢田川の瀬古基準観測所(名古屋市)で氾濫発生水位に到達し、レベル5氾濫特別警報を発表。

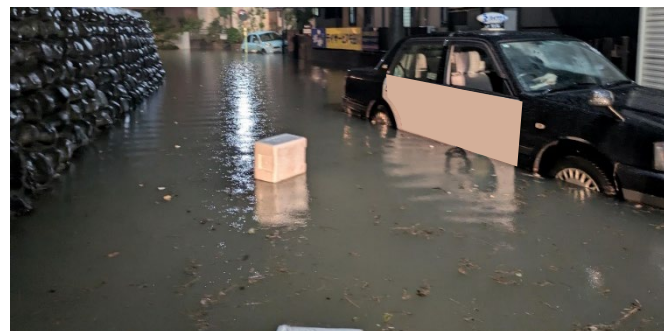
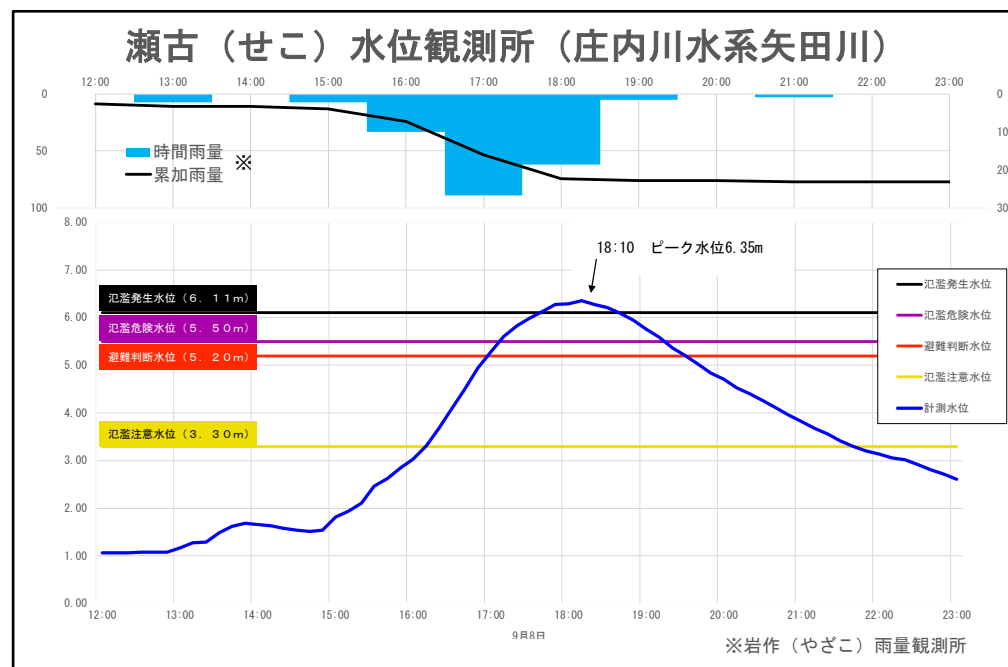
9/8の状況

16:00頃 名古屋市中心部の道路浸水が報道される

16:28 愛知県西部で線状降水帯発生

16:30 名古屋市付近で1時間に約100mmの猛烈な雨が降っているとして、記録的な短時間大雨情報が発表

18:20 レベル5氾濫特別警報発表
(庄内川水系矢田川)



19時頃の矢田川周辺の内水による浸水状況

避難情報、防災気象情報の伝達手段の活用状況

避難に関する情報発信について

【千葉県内22市町における住民への情報発信の状況】

- ・消防庁において、レベル5大雨特別警報が発表された千葉県内の22市町を対象にアンケート調査を実施。
- ・登録制メールや防災アプリ、LINE等の事前に登録した住民にプッシュ型で情報を届けるツールは、22市町全てで利用
- ・事前登録不要で、当該市町内にある全てのスマホに、音とともに即時に通知する緊急速報メールを活用した市町は、6市であった。

令和8年8月千葉豪雨における住民への災害情報伝達手段に関するアンケート調査結果

	防災行政無線等	スマホにプッシュ型で情報を伝達可能なツール				
		緊急速報メール	登録制メール	防災アプリ	LINE	その他
市町数	20	6	22	10	22	10

緊急速報メールを活用しなかった主な理由

- 夜間、深夜帯の配信による混乱を避けるため。
- 不要不急の避難や、避難が不要な地域の住民の過剰な避難行動を懸念したため。
- 運用実績が乏しく、習熟度が不十分であったため。
- 市内全域に配信されるので、苦情が出ることを懸念したため。
- 今回の豪雨に限らず、普段から緊急速報メールを情報伝達手段の一つとして位置付けていないため。

<上記のほか、市町から聴取した内容> ※市町に対し、個別名を公表しないことを前提に聞き取り

分類	市町から聴取した主な内容
応急体制の構築・職員参集	○ <u>ここまでの大雨は予想されておらず、レベル3大雨警報が出た段階で職員は帰宅</u> していた。 ○電車の大幅な遅延だけでなく、車の渋滞や冠水等により、 <u>職員が庁舎へ速やかに参集できなかった</u> 。
避難所開設・避難指示の発令	○避難所が概ね開設して避難指示を発令するルールだが、 <u>避難所開設(開錠)に向かう車が渋滞にはまり開設に時間を要した</u> 。 ○全避難所開設後に避難指示の発令予定だったが、 <u>発令前にレベル5大雨特別警報が発表され、避難指示を発令できなかった</u> 。
防災基本計画・避難情報ガイドライン	○レベル5大雨特別警報に伴う浸水の緊急安全確保の発令は、 <u>地域防災計画上でもそもそも想定していない</u> 。

避難に関する情報発信について

- スマートフォンアプリでは、気象警報や降水情報等のプッシュ通知が行われている。
- カーナビ(※)においては、特別警報発表時のポップアップ通知に加え、50mm/h以上の大雨が降っているエリアを地図上に表示する機能が提供されており、運転者の安全確保を支援している。

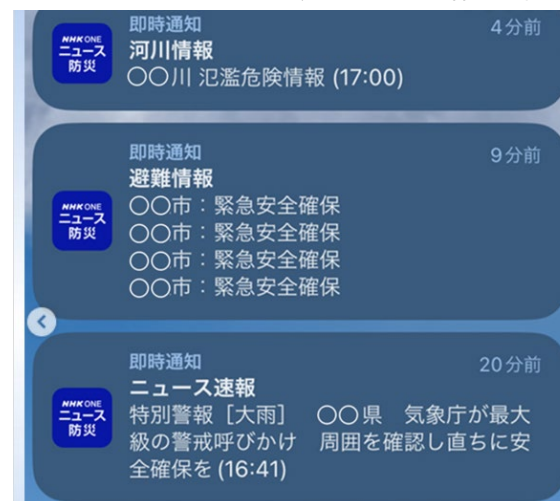
※ VICS-WIDE対応機種のみ



出典: VICSセンター



出典: LINEヤフー株式会社

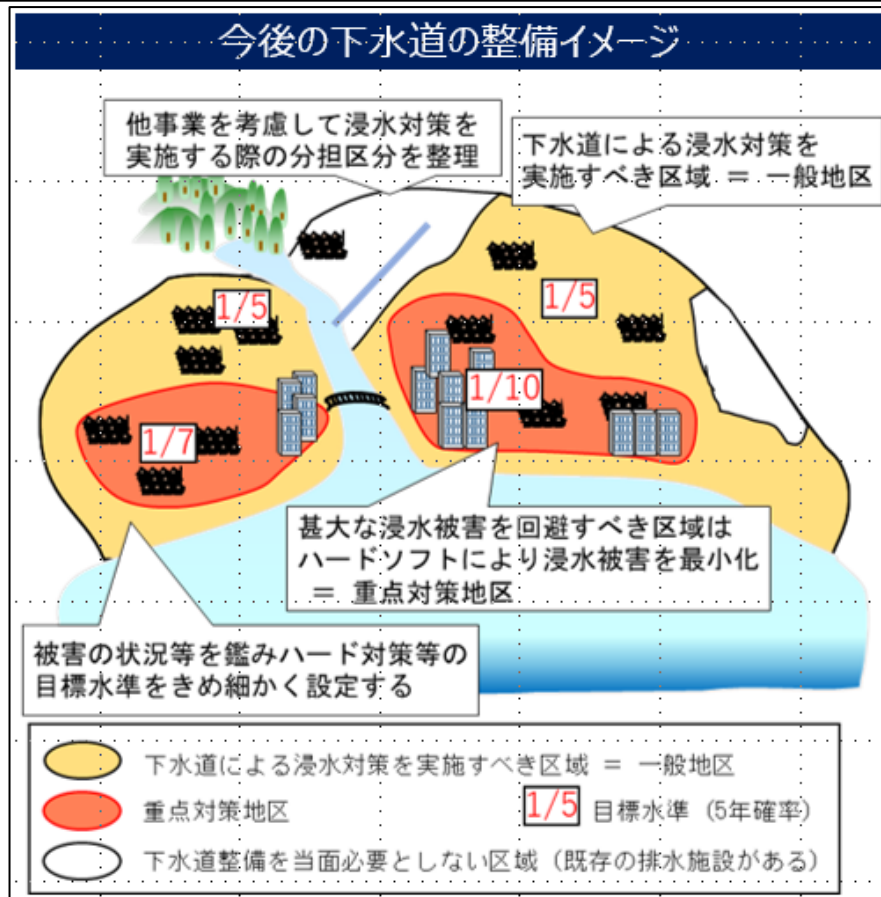


出典: NHK Instagram

平時におけるリスク情報の提供状況

内水浸水想定について

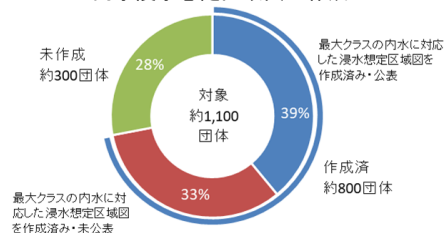
- 都市部においては、5年確率降雨(概ね50mm/h)、10年確率降雨(概ね60～70mm/h)を整備目標に、公共下水道の整備が進められている。
- 命を守り、壊滅的な被害を回避する観点から、想定しうる最大降雨(想定最大降雨)で内水浸水想定区域図を作成し、ハザードマップへ展開することとしている。
- 令和7年度末時点で、雨水対策事業を実施する約1,100団体のうち、72%(約800団体)が作成済みであり、そのうち公表済は約430団体、残る370団体は未公表である。
- 内水浸水想定区域図の作成・公表の促進について、都道府県等へ通知。(8月24日 国交省)



レベル5大雨特別警報が発表された自治体における内水浸水想定区域図の作成・公表状況

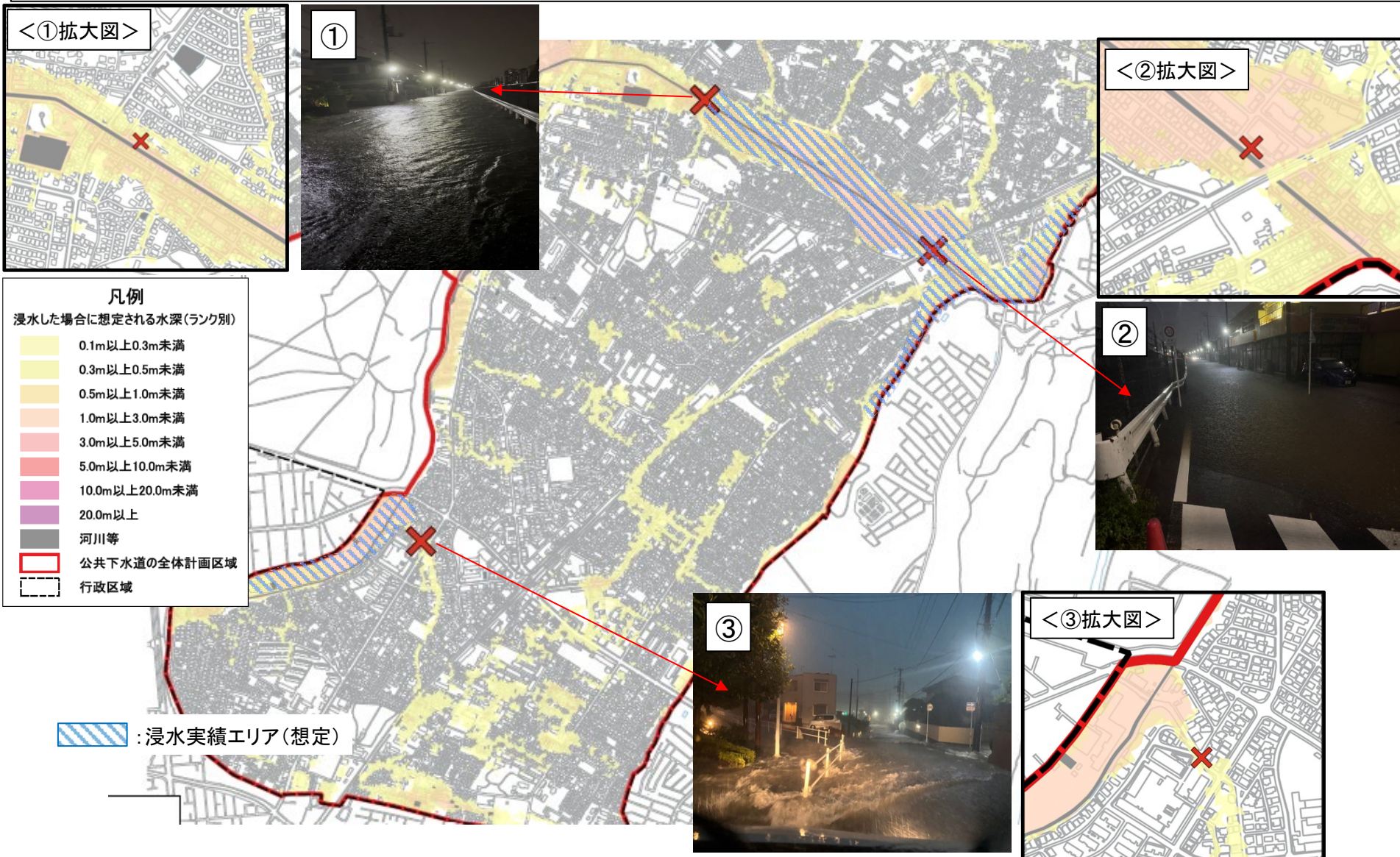
自治体	最大クラスの内水に対応した		
	浸水想定区域図		内水HM
	作成	公表	作成+公表
千葉市	○	○	○
市川市	○	○	○
船橋市	○	○	○
松戸市	○	○	○
茂原市	○	○	○
佐倉市	△(既往)	△(既往)	△(既往)
東金市	○	○	○
習志野市	△(既往)	△(既往)	△(既往)
柏市	○	○	○
市原市	○	○	○
八千代市	○	○	○
我孫子市	○	○	R9.3予定
鎌ヶ谷市	△(既往)	△(既往)	△(既往)
四街道市	○		
八街市	○	○	
印西市	○		△(既往)
白井市	○	○	○
大網白里市	○	○	△(既往)

内水浸水想定区域図の作成



内水浸水想定区域図と浸水実績の比較

- 内水の浸水想定区域図において、想定された浸水エリアと実際の浸水エリアは、概ね一致したものの一部、浸水想定区域外で浸水が確認された。

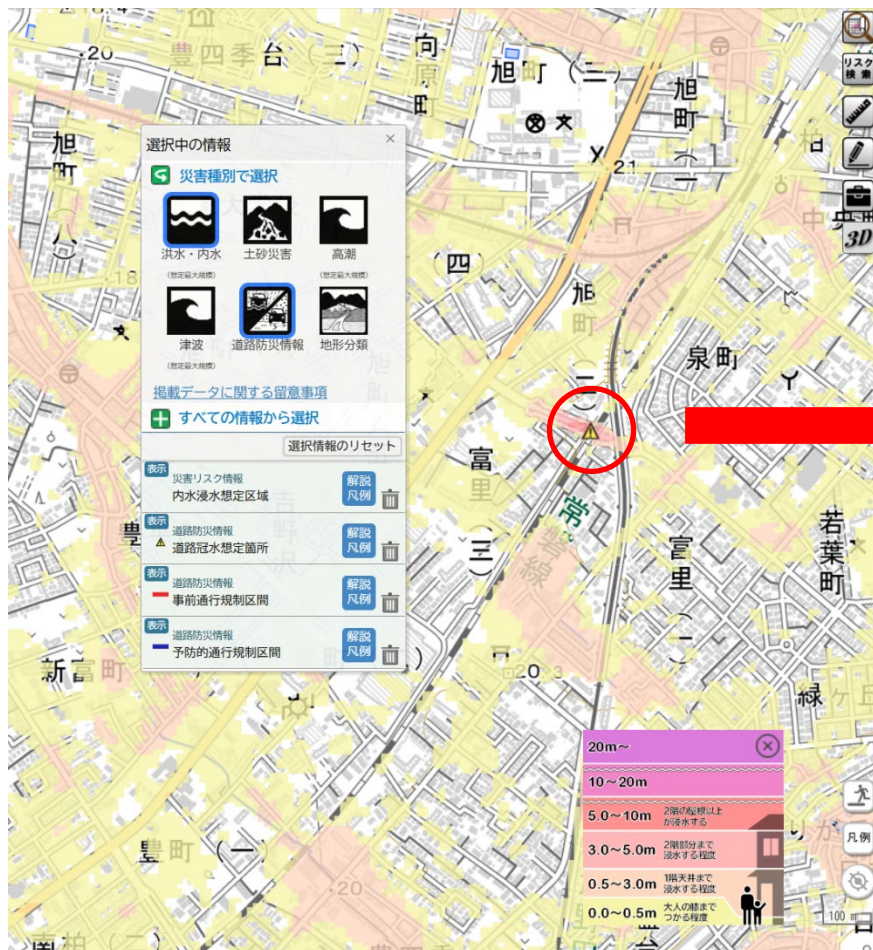


災害リスク情報

- 国土交通省は、防災に役立つ各種リスク情報や、全国の市町村が作成したハザードマップのページを一元的に確認できる「ハザードマップポータルサイト」を公開。
- 本ポータルサイトの「重ねるハザードマップ」では、洪水、内水、土砂災害等の災害リスク情報を地図上に重ねて表示。
- 例えば、道路冠水想定箇所として、アンダーパスの詳細な情報も確認可能。



※災害リスク情報は、各関係機関から提供を受け、必要に応じ加工のうえ「重ねるハザードマップ」で公開 各種リスク情報の出典と掲載数→

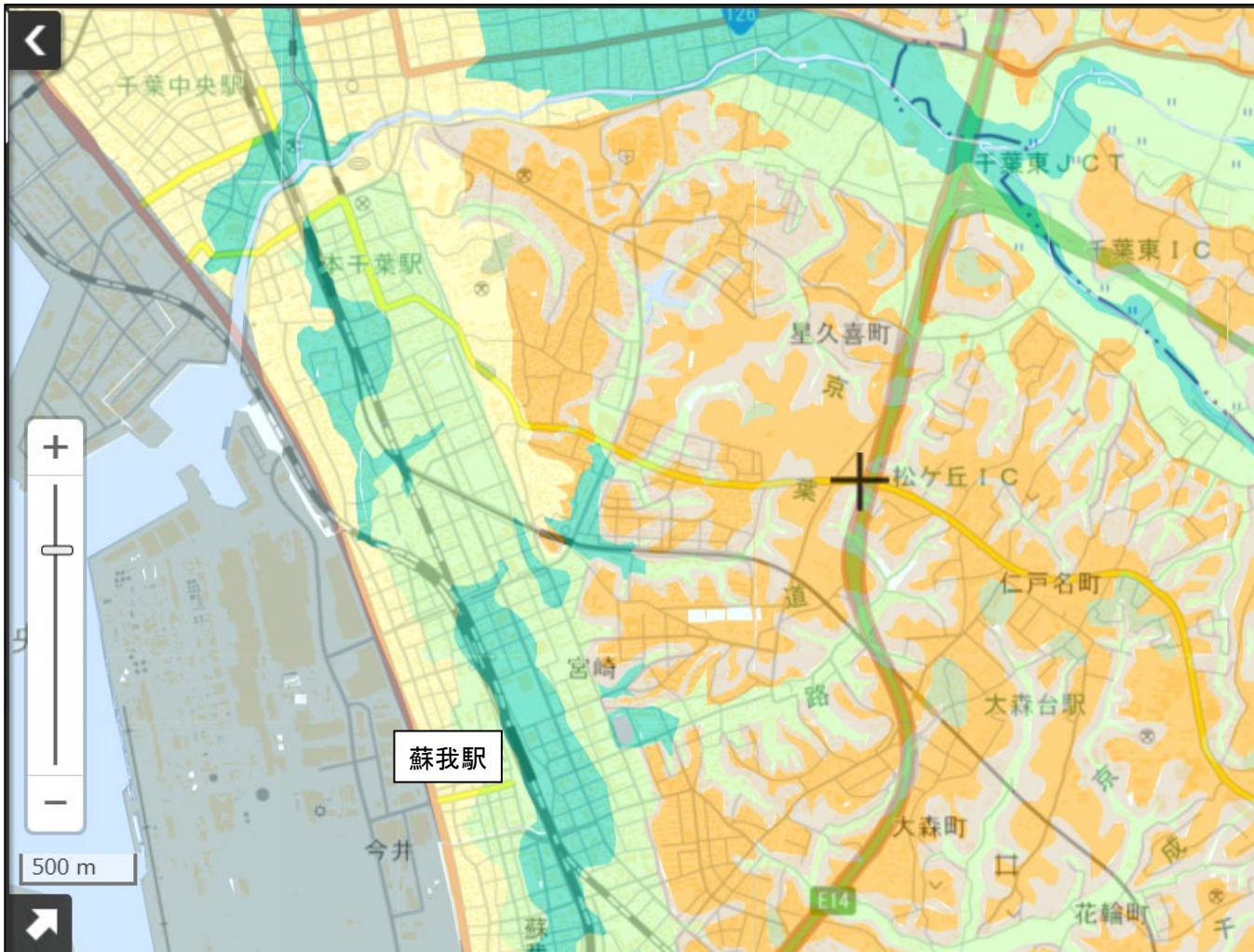


冠水想定箇所 説明表					
管理番号	箇所名称		アンダーパス等名称	種別	
千葉県-02-36	主要地方道 市川柏線		中原アンダー	県道	
住所					
都道府県名	市町村	字丁目	番地		
千葉県	柏市	旭町2丁目			
管理者		警察署	消防署		
名称	千葉県柏土木事務所	名称	柏警察署	名称	柏消防署
TEL	04-7167-1374	TEL	04-7148-0110	TEL	04-7133-0119
備考					
アンダーパスの前後に、冠水情報板あり					
位置図					
写真①			写真②		

地形分類図について

- 地形分類図は地形を形態、成り立ち、性質などから分類し、その土地が山地か台地か、低地かまた同じ低地の中でも高燥な土地か、低湿な土地か、あるいは自然の地形を人工的にどのように改変しているかなどを区分したもの。
- 地形分類の内容から、発生しやすい災害を確認することが可能。

地理院地図



凡例

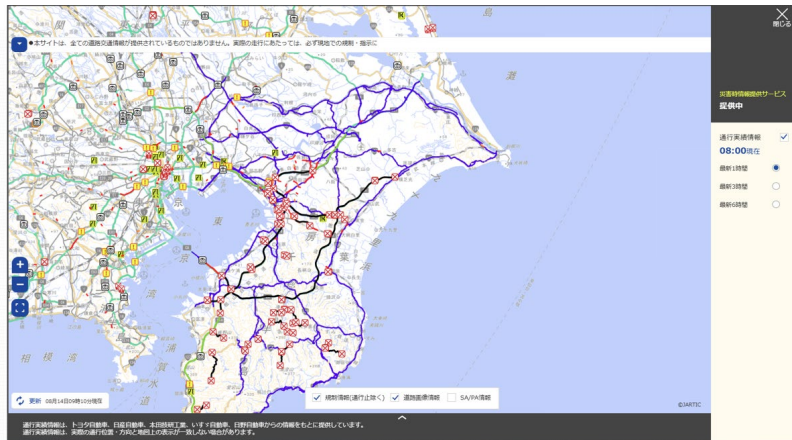
配色	地形分類	自然災害リスク
	山地斜面等	大雨や地震により、崖崩れや土石流、地すべりなどの 土砂災害 のリスクがある。
	台地・段丘	河川氾濫のリスクはほとんどないが、河川との高さの差が小さい場合には注意。縁辺部の斜面近くでは 崖崩れ に注意。地盤は良く、地震の揺れは小さい。 液状化 の発生傾向が弱い。
	砂州・砂丘	通常の洪水では浸水を免れることが多い。強い地震による 液状化 の発生傾向は砂州ではやや強く、砂丘ではやや弱い。砂丘縁辺部では非常に強い。
	氾濫平野・海岸平野	河川の氾濫 に注意。地盤は海岸に近いほど軟弱で、地震の際にやや 揺れ やすい。強い地震による 液状化 発生傾向は海岸平野で強く、氾濫平野ではやや強い。沿岸部では 高潮 に注意。
	後背低地・湿地	河川の氾濫によって周囲よりも長期間 浸水 し、水はけが悪い。地盤が軟弱で、地震の際の 揺れ が大きくなりやすい。 液状化 の発生傾向がやや強い。沿岸部では 高潮 に注意。
	旧河道	河川の氾濫によって周囲よりも長期間 浸水 し、水はけが悪い。地盤が軟弱で、地震の際の 揺れ が大きくなりやすい。特に埋立(盛土)した地域では 液状化 の発生傾向が非常に強い。
	扇状地	山地からの出水による 浸水 や、谷口に近い場所では 土石流 のリスクがある。比較的地盤は良いため、地震の際には揺れにくい。下流部ではやや弱い 液状化 の発生傾向がある。
	凹地・浅い谷	大雨の際に一時的に雨水が集まりやすく、 浸水 のおそれがある。地盤は周囲(台地・段丘など)より軟弱な場合があり、特に周辺が砂州・砂丘の場所では 液状化 の発生傾向が強い。
	自然堤防	洪水に対しては比較的安全だが、大規模な洪水では 浸水 することがある。縁辺部では 液状化 の発生傾向が強い。

リアルタイムのリスク情報の提供状況

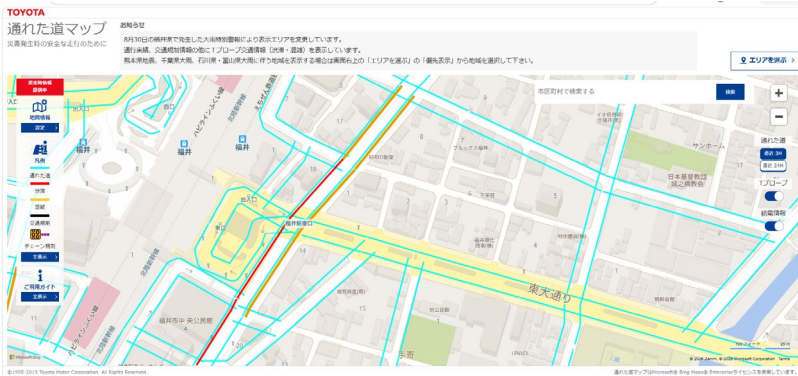
浸水のリアルタイム情報

- ・ 浸水状況をリアルタイムで把握する手段として、浸水センサによる観測情報、車両の走行実績データを活用した通行実績情報、利用者から提供された被害情報等を集約・可視化したサービス等がある。
- ・ 車両の走行実績データは、平時は個社のサービスとして提供されているが、大規模災害時にはJARTICが各社の情報を一元化しHPで提供している。

大規模災害時は、トヨタ自動車、日産自動車、本田技研工業、いすゞ自動車、日野自動車からの情報をもとにJARTICにおいて、通行実績情報を提供。



出典: JARTIC HP



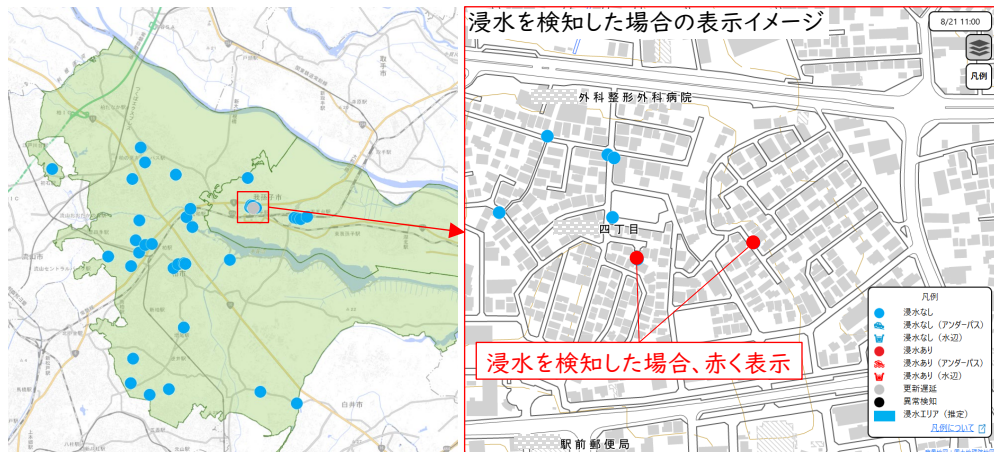
出典: TOYOTA HP

浸水センサによる浸水把握と可視化

- 長寿命、低コスト、容易な設置(電池駆動)を可能とした、**浸水の有無のみを検知するセンサ**
- 浸水判定結果を携帯回線等の既存の通信サービスを用いて浸水情報を送信
- センサは現在200を超える自治体で導入が進められているものの、全国的には一部にとどまっている



各センサの情報を一元的に収集し可視化



出典: 国土交通省 ワンコイン浸水センサ表示システムHP

帰宅困難者の状況

帰宅困難者の発生状況

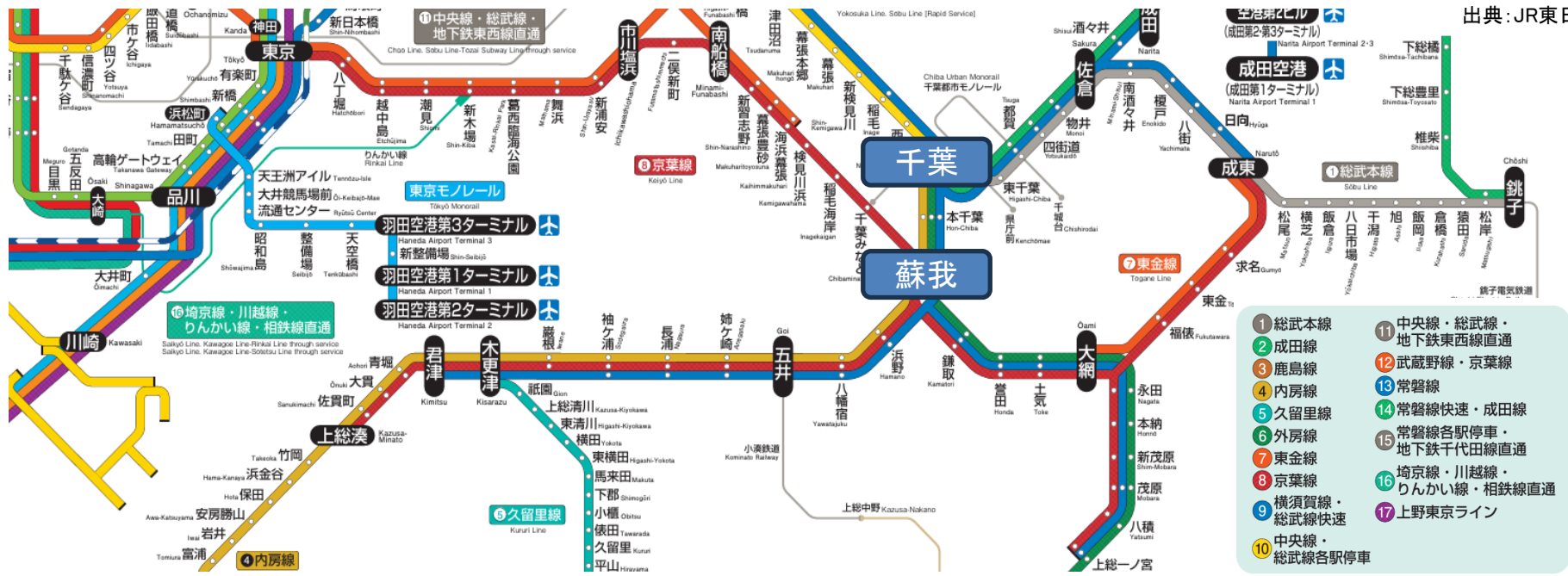
- 令和8年8月千葉豪雨では、鉄道の運転見合わせ等により、千葉駅や蘇我駅などの主要駅周辺で多数の帰宅困難者が発生。
- 特に蘇我駅では駅周辺が浸水したことから、約4,000人が帰宅困難者となり、その多くが朝まで駅舎で過ごしたと報道もされている。

【JRの運行状況】

- 京葉線は19:10頃に海浜幕張～蘇我間で運転見合わせ
- 内房線は18:10頃、外房線は17:30頃に運転見合わせ
- 内房線、外房線は22:01頃に当日中の運転再開見込みがないことを周知



出典：JR東日本



出典：JR東日本webサイトに一部加筆

千葉県内における帰宅困難者対策の状況

- ・ 平時より、県内の公共施設の他、民間事業者等の協力により一時滞在施設の確保を進めており、公表の承諾が得られた施設については、HP上で公開している。
- ・ また、帰宅困難者に対して必要な支援を図ることを目的として、行政や事業者が一体となって駅周辺帰宅困難者等対策協議会を設置している。

一時滞在施設

下記のほか、平常時非公表の一時滞在施設が3か所あり、千葉市が指定している一時滞在施設数は26施設です。
(令和8年5月25日時点)

N o.		名称	所在地
1	千葉 駅 周 辺	千葉JPFドーム	中央区弁天4-1-1
2		千葉サイクル会館	中央区松波1-1-10
3		千葉市生涯学習センター	中央区弁天3-7-7
4		千葉県庁本庁舎・中庁舎・南庁舎	中央区市場町1-1
5		千葉県文化会館	中央区市場町11-2
6		財務省関東財務局千葉財務事務所	中央区椿森5-6-1
7		千葉県文書館	中央区中央4-15-7
8		株式会社千葉銀行本部棟	中央区千葉港1-2
9		千葉県社会福祉センター	中央区千葉港4-5
10		YohaSアリーナ ～本能に、感動を。～ (千葉公園総合体育館)	中央区弁天4-1-2
11		株式会社千葉銀行千葉みなと本部	中央区千葉港5-45
12		千葉県企業局庁舎	中央区中央4-13-23

出典: 千葉市HP

駅周辺帰宅困難者等対策協議会設置のためのガイドライン

1 基本的な考え方

災害発生時に、公共交通機関が運行停止となったために帰宅が困難になる方や、やむを得ず徒歩で帰宅される方など、いわゆる帰宅困難者等に対しては、各駅周辺の地域事情等に鑑み、実効性の高い対策を行うことが重要である。
したがって、大量の帰宅困難者等の発生が予想される駅ごとに「駅周辺帰宅困難者等対策協議会(仮称)」を設置し、以下のテーマを中心に、行政や関係事業者が一体となって、すみやかに帰宅困難者等対策に取り組んでいく。

2 協議会で扱うテーマ

(1) 情報連絡体制の確立 ・ 会員相互の緊急連絡体制の確立 ・ 帰宅困難者等への情報提供体制の確立 など	(2) 帰宅困難者等の安全確保 ・ 駅周辺の一時滞在施設の確保 ・ 帰宅困難者等の安全に配慮した誘導体制の検討 など
(3) 安全確保後の徒歩帰宅支援 ・ 駅周辺から帰宅支援対象道路に至るルートの設定 ・ 上記ルートに係るマップの作成 など	(4) その他 ・ 各協議会単位での訓練の実施 など

出典: 千葉県HP

千葉駅周辺帰宅困難者等対策協議会

構成 区分	構成機関名称
行政 機関	千葉県、千葉市(区役所・消防局含む)
警察 機関	千葉中央警察署、千葉県警察千葉市警察部、千葉県鉄道警察隊
交通 機関	東日本旅客鉄道(株)千葉駅・千葉支社、京成電鉄(株)、千葉都市モノレール(株)、(一社)千葉県バス協会
商業 施設 等	千葉商工会議所、(株)そごう・西武そごう千葉店、(株)千葉センシティ、(株)千葉ショッピングセンター、(株)千葉ステーションビル、(公社)千葉市観光協会
宿泊 施設	京成ホテルミラマーレ、三井ガーデンホテル千葉
一時 滞 在 施 設	千葉県本庁舎・中庁舎・南庁舎、千葉県文化会館、株式会社JPF、千葉サイクル会館、千葉市生涯学習センター、千葉財務事務所、株式会社千葉銀行

出典: 千葉市HP

一時滞在施設等の活用状況

- ・ 帰宅困難者の発生に伴い、指定避難所や市町村が事前に指定していた一時滞在施設に加え、それ以外の民間企業施設においても帰宅困難者の受け入れを行った。
- ・ 各主体がSNSやHPで一時滞在施設の開設を発信するとともに、鉄道事業者においても一時滞在施設の開設状況を放送で周知。

(追加) 帰宅困難者一時滞在施設を開設 (2026年8月13日 21時00分)

※一時滞在施設として「YohaSアリーナ」を追加で開設しました※

【帰宅困難者一時滞在施設を開設】
公共交通機関の一部運休に伴い、帰宅困難者のため、以下の一時滞在施設として開設しました。

<一時滞在施設>
千葉県庁、千葉市生涯学習センター、JFE 体育館、千葉市役所1階市民ヴォイド、蘇我コミュニティセンター、YohaSアリーナ

出典: 千葉市HP



出典: NHK HP

千葉市広報広聴課 @Chiba_city_PR

※一時滞在施設として「千葉県文書館」「千葉県文化会館」を追加で開設しました※
【帰宅困難者一時滞在施設を開設】
公共交通機関の一部運休に伴い、帰宅困難者のため、以下の一時滞在施設として開設しています。

<一時滞在施設>
2026年08月13日 11:22 午後・16.7万 表示

9 1,064 871 46

関連性 引用を表示

千葉市広報広聴課 @C... ・2時間

【千葉駅】千葉県庁、千葉市生涯学習センター、千葉市役所1階市民ヴォイド、YohaSアリーナ、千葉県社会福祉センター、千葉県企業局庁舎、千葉県文書館、千葉県文化会館
【蘇我駅】蘇我コミュニティセンター、JFE 体育館
【海浜幕張駅】幕張メッセ

3 232 124 3.7万

出典: 千葉市広報広聴課X

天然温泉 湯〜ねる... @uneru55

【帰宅困難の方を受け入れます】
新習志野駅周辺で帰宅困難の方へ

新習志野駅前の「湯〜ねる」にて、朝まで館内に滞在いただけます。

フロントにて帰宅困難の旨お伝えいただければ深夜滞在費用無料で館内にご滞在いただけます！

深夜1時〜6時を除いて入浴も可能です。
タオルも館内着も遠慮なくお申し付けください！

#新習志野 #帰宅困難 #湯〜ねる

2026年08月13日 10:18 午後・203万 表示

90 8,459 1.7万 699

出典: 天然温泉湯〜ねる(公式)X

9月8日の大雨に伴う帰宅困難者への対応状況

- ・9月8日の前線による大雨により名古屋市などにおいて、公共交通機関が長時間運行を停止したことに伴い、多くの帰宅困難者が発生した。
- ・名古屋市では平時から大規模地震の発生を想定した帰宅困難者を受け入れるための施設を一元的にとりまとめ、ウェブサイト(帰宅困難者支援サイト)で公表している。当日は、急遽大雨による受け入れの協力を依頼し、施設の開設状況や混雑度合いがウェブサイトやSNSを通じてタイムリーに周知され、多くの帰宅困難者が施設に滞在した。
- ・夜10時半頃までには多くの路線で運行が再開された。

9月8日の帰宅困難者退避施設開設状況

- ・名古屋市からの退避施設の開設要請: 17時21分
- ・退避施設は、名古屋駅、金山駅周辺、栄・伏見地区で最大17か所



名古屋市帰宅困難者退避場所マップ8日22時時点(<https://nagoya-bousai.maps.arcgis.com/apps/dashboards/fe3d75a5a32c49a8924b0bc1778e2bb1#>)

9月8日の大雨に伴う帰宅困難者への対応状況



バスターミナルの混雑状況 出典: NHK

退避場所についての情報発信



名古屋市防災【公式】
@nagoya_bousai

X.com

名古屋市災害対策本部から名古屋駅、金山駅、伏見駅・栄駅の周辺の方へ
大雨の影響で公共交通機関が運行を停止しております。
帰宅が難しい方のため、24時間の滞在を限度に「退避施設」が開設されております。

帰宅困難者支援サイトはこちら
<https://plus.sugumail.com/usr/nagoya/doc...>

名古屋市災害対策本部から名古屋駅、金山駅、伏見駅、栄駅の周辺の方へ
9月8日 18時15分配信

大雨の影響で公共交通機関が一部運行を停止しております。

帰宅が難しい方のため、24時間の滞在を限度に「退避施設」が開設されております。

> [帰宅困難者支援サイト](#)

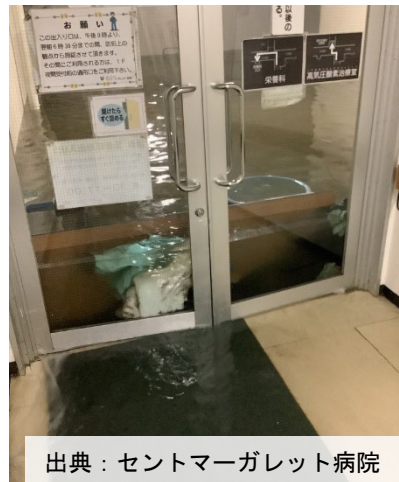
浸水した建物等の被害状況

マンションや病院の地下浸水

- ・マンションの地下に設置された電気設備の浸水による、停電の発生。
- ・千葉市の多数のマンションでは停電に伴う断水、エレベーター停止等が発生。
- ・浸水想定区域外であった千葉大学医学部附属病院において、地下にあった排水管や、ポンプ・電気基板が泥水をかぶって故障し、手術等に支障が生じる等、多数の病院で浸水被害が生じた。

セントマーガレット病院(八千代市)の被害状況

13日	19:30	・ 外は90cm～160cm程度まで水量が上昇 ・ ボイラー冠水 ・ 揚水ポンプ冠水 ・ 一部の空調機器冠水 ・ MRI室、サーバー室浸水継続 ・ 浸水圧力により霊安室側出入口ドア破損
	23:00	・ 浸水止まらず、水量がコンセントに至り、漏電および感電の危険性がある為、地下対応中止
14日	—	・ 水道 揚水ポンプ使用不可 ・ 胃カメラ 中止 ・ 透析 中止



出典：セントマーガレット病院



出典：セントマーガレット病院

千葉大学医学部附属病院(千葉市)

出典：千葉市 内水氾濫想定データに加筆



建築物における電気設備の浸水対策について

- 令和元年東日本台風をきっかけに、国土交通省と経済産業省が「建築物における電気設備の浸水対策ガイドライン」をとりまとめ、地方公共団体及び関連業界団体に周知。



「建築物における電気設備の浸水対策ガイドライン」をとりまとめました
～洪水等の発生時における機能継続に向けた対策を提示～

国土交通省と経済産業省は、洪水等の発生時に機能継続が必要と考えられるマンション、オフィスビル、病院等の建築物における電気設備の浸水対策のあり方や具体事例について記載したガイドラインをとりまとめました。

今後、新築・既存の建築物において、洪水等の発生時における機能継続に向けて浸水対策を講じる際の参考となるよう地方公共団体及び関連業界団体等に対して周知してまいります。

1. 概要

令和元年東日本台風（第19号）による大雨に伴う内水氾濫により、高層マンションの地下部分に設置されていた高圧受変電設備が冠水し、停電したことによりエレベーター、給水設備等のライフラインが一定期間使用不能となる被害が発生しました。

こうした建築物の浸水被害の発生を踏まえ、国土交通省と経済産業省の連携のもと、学識経験者、関連業界団体等からなる「建築物における電気設備の浸水対策のあり方に関する検討会」を昨年11月に設置し、「建築物における電気設備の浸水対策ガイドライン」としてとりまとめました。

本ガイドラインについては、新築・既存の建築物において、洪水等の発生時における機能継続に向けて浸水対策を講じる際の参考となるよう地方公共団体及び関連業界団体等へ本日付で通知してまいります。

2. 「建築物における電気設備の浸水対策ガイドライン」の主な構成

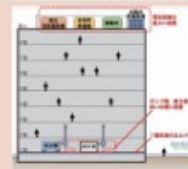
ガイドライン本文	・洪水等の発生時に機能継続が必要となる新築・既存の建築物における電気設備の浸水対策のあり方や取組の特徴・留意点等を記載。
参考資料集	・建築物における電気設備の浸水対策の具体事例、解説等を図や写真等を用いて紹介。

※ガイドライン、検討会の開催状況については下記の国土交通省HPに掲載しております。
http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/build/jutakukentiku_house.tk_000132.html

○浸水リスクを軽減するための具体的な取組

①浸水リスクの低い場所への電気設備の設置

【例】屋上に電気設備を設置



②対象建築物内への浸水を防止する対策

（対象建築物の外周等における水防ラインの設定等）

・対象建築物の出入口等における浸水対策

【例】床面の嵩上げ



【例】止水板の設置



・からぼりや換気口等の開口部における浸水対策



・排水・貯留設備における逆流・溢水対策



③水防ライン内において電気設備への浸水を防止する対策

【区画レベルでの対策】

・防水扉の設置等による防水区画の形成

【例】防水扉を設置



【電気設備側での対策】

・電気設備の設置場所の嵩上げ等

・耐水性の高い電気設備の採用

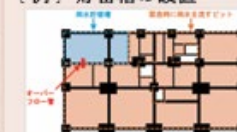
【例】浸水防止カバーを設置



【浸水量の低減に係る対策】

・貯留槽の設置

【例】貯留槽の設置



④洪水等の発生時における適切な対応等

①～③の対策のうち、土壌や止水板設置など、人的な対応が必要となる対策については、洪水等の発生時における物的・人的資源の活用方策について、あらかじめ関係者間での調整を行い、対応方針を共有する等、十分な準備を講じておくことが望ましいです。

出典：建築物における電気設備の浸水対策ガイドライン（パンフレット）

住宅市街地総合整備事業(水害対策型)

大規模水害が想定される人口集積地において、浸水切迫時の垂直避難先となる建物内避難者受入れスペースや避難経路となるデッキの整備、被害軽減のための浸水対策改修など、住宅市街地における水害対策を総合的に支援する事業を実施。

ソフト対策・計画策定

現況調査・計画策定 事業化コーディネート 協議会活動 普及啓発 等

<補助率>

民間：国1/3、地方1/3 公共：国1/2

緊急避難対策

水平避難・垂直避難に資する避難経路・避難場所の確保

建物内の避難者受入れスペース 避難路・デッキ 避難地・高台公園等

<補助率>

民間：国2/3、地方1/3 公共：国1/2

※避難者受入れスペースは、その整備に伴うかかり増し費用が対象



一時滞在対策

水が引くまでの避難者の一時滞在に必要な施設整備

防災備蓄倉庫 非常用発電機 太陽光パネル・蓄電池 防災井戸

耐震性貯水槽 浄化設備や排水設備 マンホールトイレ 等

<補助率>

民間：国2/3、地方1/3 公共：国1/2

※避難者受入れスペースの整備に伴うかかり増し費用が対象



浸水対策

住宅・避難所等の浸水対策に係る改修等

嵩上げ ピロティ化 止水板 囲い堀 耐水化 雨水貯留浸透施設

【嵩上げ、ピロティ化、止水板、囲い堀、耐水化】

<補助率（避難所等の防災拠点）>

民間：国1/3、地方1/3 公共：国1/2

<補助率（その他の住宅・建築物）>

民間：国11.5%、地方11.5% 公共：国11.5%

<対象建築物>

	避難所等の防災拠点	その他の住宅・建築物
嵩上げ、ピロティ化	既存建築物	①に限る
止水板、囲い堀、耐水化	①又は②に限る	

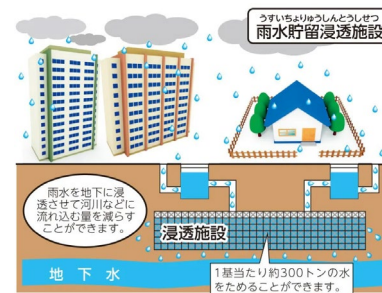
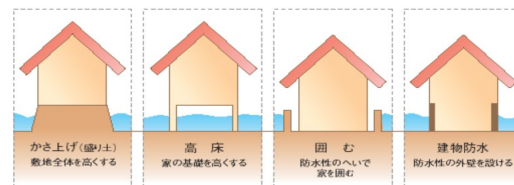
- ① 災害危険区域などの水害に関する建築制限により既存不適格となった住宅・建築物
- ② 浸水想定区域内の住宅・建築物（浸水想定区域の指定以前に建築されていたもの）



【雨水貯留浸透施設】

<補助率>

民間：国1/3、地方1/3 公共：国1/3



【整備地区の要件】

- 重点整備地区を一つ以上含む地区
- 整備地区の面積が概ね5ha以上（重点供給地域は概ね2ha以上）
- 原則として住宅戸数密度が30戸/ha以上の地区

【重点整備地区の要件】

- 浸水想定区域内
- 浸水被害発生時の緊急避難先が地区内に不足
- 重点整備地区の面積が概ね1ha以上（重点供給地域は概ね0.5ha以上）

浸水対策にかかる災害拠点病院指定要件及び医療施設等の耐災害性強化事業

- ・ 災害拠点病院の指定要件を令和6年4月に改正し、浸水想定区域等では浸水対策を講じることを要件に追加。
- ・ 浸水対策等を推進するため、厚生労働省では各種補助事業を実施。

浸水対策にかかる災害拠点病院指定要件

浸水想定区域(洪水・雨水出水・高潮)又は津波災害警戒区域に所在する場合は、風水害が生じた際の被災を軽減するため、止水板等の設置による止水対策や自家発電機等の高所移設、排水ポンプ設置等による浸水対策を講じること。

	医療施設給水設備強化等 促進事業	医療施設非常用自家発電装置 施設整備事業	医療施設浸水対策事業
【事業の目的】	災害により長期の断水が発生しても医療施設の診療機能を維持するために必要な水を確保できるよう、給水設備の整備強化等を図る。	災害により長期の停電が発生しても医療施設の診療機能を維持するために必要な電気を確保できるよう、非常用自家発電設備の整備強化等を図る。	医療施設における浸水対策の充実・強化を図ることにより、洪水等の発生時においても必要な医療が受けられる体制を確保することを目的とする。
【事業概要】	災害時においても診療機能を3日程度維持するために必要な給水設備(※)の整備に対する支援を行う。 ※ 3日程度診療機能を維持するために必要な受水槽、地下水利用のための設備等	災害時においても診療機能を3日程度維持するために必要な非常用自家発電装置(※)の整備に対する支援を行う。 ※ 3日程度診療機能を維持するために必要な非常用自家発電装置、燃料タンク	浸水想定区域や津波災害警戒区域に所在し、地域の医療提供体制の観点から浸水想定区域等から移転することができない医療機関に対し、医療用設備や電気設備の想定浸水深以上への移設、止水板や排水ポンプ等の設置のための財政支援を行う。
【補助対象】	・ 救命救急センター、周産期母子医療センター、へき地医療拠点病院、へき地診療所、地域医療拠点病院、特定機能病院、ほか政策医療実施機関 ・ 公立・公的病院及び有床診療所		ハザードマップ等による洪水・雨水出水・高潮の浸水想定区域や津波災害警戒区域に所在している次の医療機関 ①公的病院・診療所 ②公立病院・診療所 ③救命救急センター、災害拠点病院、災害拠点精神科病院、周産期母子医療センター、へき地医療拠点病院、へき地診療所、地域医療支援病院、特定機能病院、ほか政策医療実施機関
【補助率】	1/2(国1/2、事業者1/2)	1/3(国1/3、事業者2/3)	1/3(国1/3、事業者2/3)

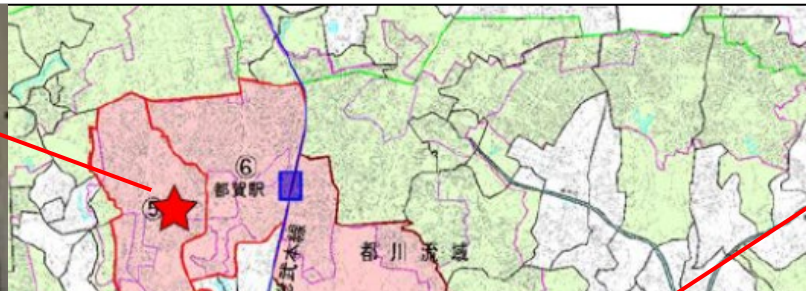
氾濫を防ぐための治水の状況

内水氾濫に対するハード対策の状況

- 千葉市では、近年の局地的大雨や台風による浸水被害を軽減するため、「千葉市雨水対策重点地区整備基本方針」を策定し、「浸水リスク」と「都市機能集積度」がともに高い地区を重点地区(65.1mm/h)に位置付け、効率的な雨水対策を推進。
- この取り組みの一環として、公園地下空間を活用した雨水貯留槽の整備を進め、令和8年4月までに市内3施設について雨水貯留槽の供用開始。
- 重点地区について、65.1mm/hまで降雨レベルを上げて下水道施設の整備を進め、今回の豪雨により満水となるなど整備効果を発揮したが、想定以上の降雨(115mm/h)により、浸水被害が発生。



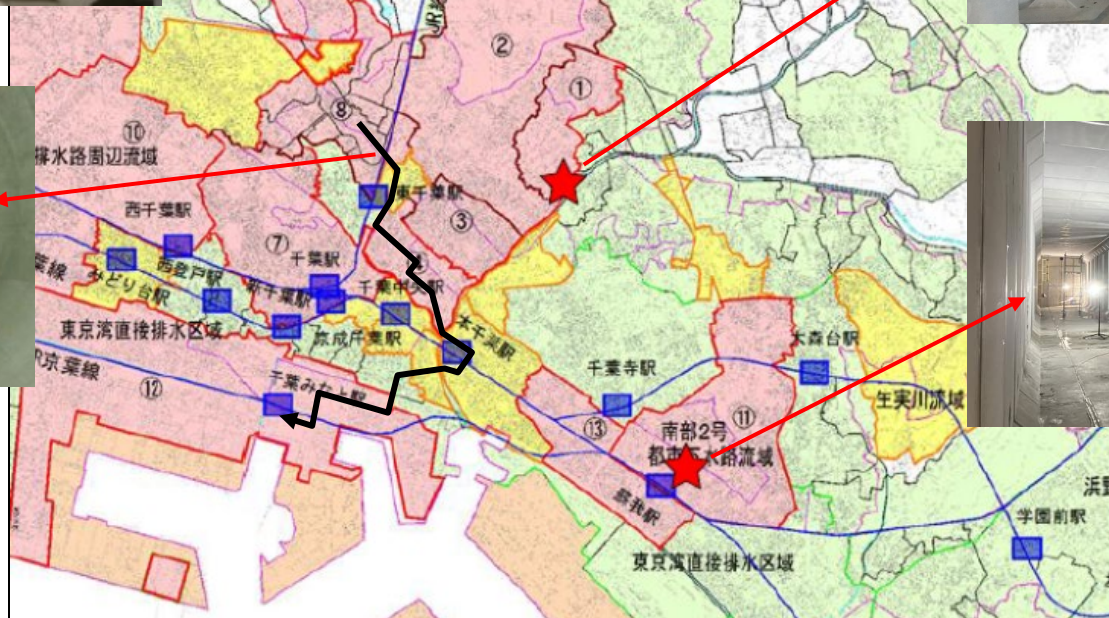
みつわ台雨水貯留槽
貯留量: 7,500m³



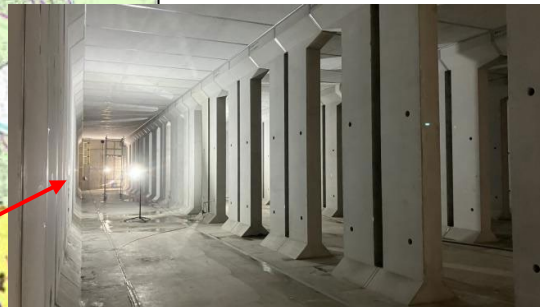
都雨水貯留槽
貯留量: 2,600m³



中央雨水1号貯留幹線
内径: 5,250mm 延長: 約 5.1km



- 重点地区
- 一般地区(高)
- 一般地区(低)



宮崎雨水貯留槽
貯留量: 11,000m³

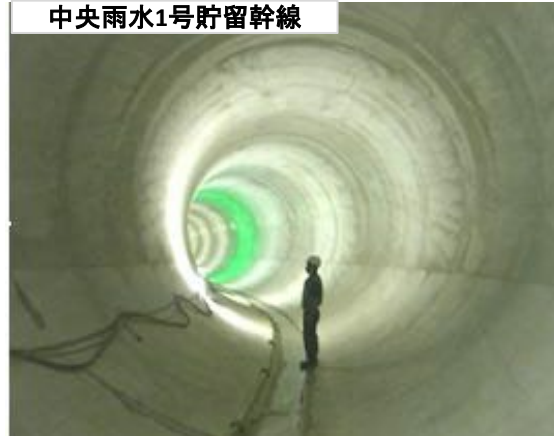
雨水出水に対するハード対策の状況

- 一宮川(千葉県)では令和元年10月25日豪雨を踏まえて、国土強靱化5カ年加速化予算等を緊急的かつ集中的に投資し、河川整備(河道拡大、第二調節池の増設等)とともに、内水対策(排水能力増強等)を推進する「流域治水」の取組により、浸水被害を大幅に軽減。引き続き、令和11年度末までの河川整備の完成を目指す。
- 千葉市では、中央雨水貯留幹線の整備により中心市街地の雨水を取り込み、東京湾に直接排水することにより浸水被害の軽減を図る。

位置図



中央雨水1号貯留幹線



1. 区間 中央区中央港1丁目～中央区 東千葉1丁目(山部公園) 延長約5.1km
2. 規模 内径5,250mm 埋設深さ約30m
3. 工法 泥水加圧式シールド工法

(第二調節池、40万m3増設)

令和6年10月撮影



令和8年8月14日撮影



(約3km、河道拡幅)

令和2年6月撮影

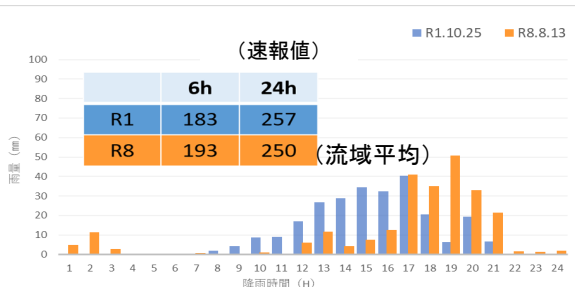


令和8年4月撮影

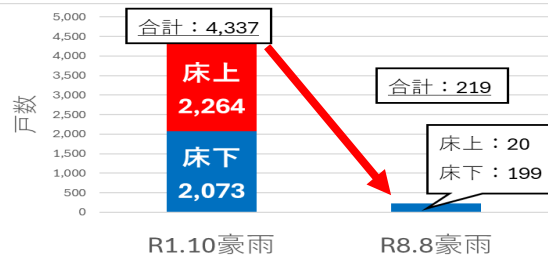


一宮川の効果事例等

令和元年とほぼ同規模の降雨

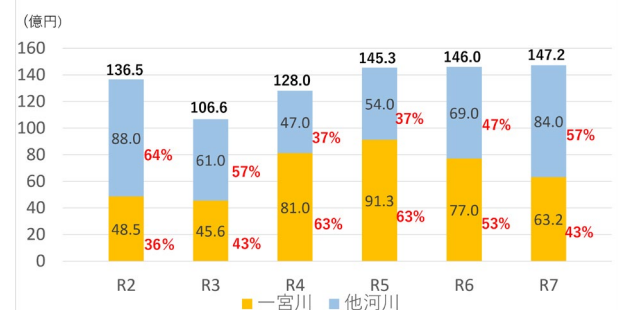


浸水家屋が大幅に減少



※令和8年の浸水家屋数は、令和8年8月25日15:30時点の流域市町村全体の暫定値であり、確定値ではありません。

千葉県の河川改修費の4割を一宮川に重点投資



千葉豪雨後に各省庁が実施した対策の状況

令和8年8月千葉豪雨を踏まえたこれまでの対応

- 「レベル5大雨特別警報が発表されたときにとるべき行動」及び「レベル5大雨特別警報が発表されたときの車運転の注意点」についてのチラシを作成・公表するとともに、SNS等で広く周知。

(内閣府、警察庁、消防庁、国交省、気象庁)

※国土交通省においては、レベル5大雨特別警報発表時の気象庁と水局の合同会見でチラシも活用し、警戒を呼びかけ。(8/27石川県・富山県、8/30福井県)

- 風水害に備えた各種交通対策の更なる推進に努めるよう「運転者に対する広報啓発の推進」や「道路管理者との連携」について、各都道府県警察に通達。(警察庁)
- 内水浸水想定区域図の作成・公表の促進について、都道府県等へ通知。(国交省)
- アンダーパスにおける冠水事故防止に向けた当面の対応について、地方整備局等へ通知。(国交省)
- 過去に冠水事故が発生した箇所など、冠水リスクの高いアンダーパスについて、予防的な事前通行規制を導入。(国交省)

レベル5大雨特別警報が 発表されたときにとるべき行動

すでに安全な避難ができず、
命が危険な状況です
むやみに移動せず
今いる場所よりも**安全な場所へ移動して**
身の安全を確保しましょう

- ❗ 浸水した場所での車移動は危険！
立ち止まりし水没するおそれがあります。
むやみに移動せず安全な場所で状況が落ち着くまで待機しましょう。
- ❗ 河川・用水路・冠水した箇所へ
絶対に近づかない！
特に地下施設やアンダーパス、低地は短時間で
浸水する危険があります。
浸水深30cm以上となる低地は要注意
- ❗ 市町村が発令する**警戒レベル4避難指示**までに
必ず避難しましょう！
- ❗ レベル5大雨特別警報が発表される前段階から
最新の気象・避難情報を確認！
テレビ、ラジオ、インターネット、SNS、防災行政無線等で
最新の情報を確認してください！
- ❗ 浸水リスクを確認しましょう！
ご自身のいる場所が、河川の氾濫や内水氾濫による浸水リスクがないか、
自治体が公表しているハザードマップや防災情報を確認しましょう。

内閣府(防災担当)・警察庁・消防庁・国土交通省・気象庁

レベル5大雨特別警報 が発表されたときの車運転の注意点

浸水が懸念されるときは
車での移動を控えてください！
冠水した道路への進入は
命に関わる危険があります
安全を最優先に行動しましょう！

❗ 車はわずか30cm程度の浸水でも**走行不能**になる場合があります

❗ エンジン停止や水圧で
窓やドアが**開かなくなります**
万が一、ドアが開かなくなった場合の備えとして、
脱出用ハンマーをすぐに使える位置に！



脱出用ハンマーで窓を破る(合わせガラスは破れない)
水没が深くなると、車体の浮力が増え、エンジンが停止し、窓ガラスが割れ、ドアが開かなくなるおそれがある。
水没が浅い場合、エンジンが停止し、窓ガラスが割れ、ドアが開かなくなるおそれがある。
水没が深くなると、車体の浮力が増え、エンジンが停止し、窓ガラスが割れ、ドアが開かなくなるおそれがある。

歩行または**早めの避難**を心がけ、
やむを得ず車を使う場合は**冠水した道路を避けてください**

内閣府(防災担当)・警察庁・消防庁・国土交通省・気象庁

水害から身を守るために

大雨の中運転するときは、車の水没による事故を防ぐため、次の点に留意しましょう。

水没しないために



- 交差する道路や鉄道の下を通過する**アンダーパス**(立体交差)は冠水のおそれがあるため、通行しない。
- 進行しようとする道路が冠水している場合には、**進まず引き返す**。

写真の出典：『災害時における緊急脱出の運転者行動に関する調査研究(Ⅱ)』
(自動車安全運転センター)

もしも水没したら



- 水没で車のドアが開かなくなった場合に備え、**緊急脱出用ハンマー**をすぐに取り出せるよう運転席近くに備え付ける。
- 車のガラスを割る際は、**割れやすいサイドガラスの窓枠付近**を叩く。

写真の出典：警察庁警備部災害対策課